ハンドボール代表を激励する

日本オリンピック委員会
委員長
日本選手団々長
青木半治

三十六年ぶりにオリンピック大会の競技種目にハンドボールが再び登場することになり、わがハンドボール代表チームがアジアゾーンの予選を勝抜き初出場されますことはまことにご同慶にたえません。選ばれて参加される役員、選手のみなさんに心から拍手をおくりたいと存じます。

今回は、とくにハンドボール発祥の地ドイツにおけるオリンピックだけに、ドイツ国民のこの競技に期待する気持ちはまことに大きなものがあることと思います。

わが国のハンドボール人口も約三万有余、二千チームの選手層を数え、すでに東京オリンピック終了直後から八年にわたっての長期強化計画をたてられ、その成果があがって今日の輝かしい時代を迎えられたのであります。

わたくしは、改めて、日本のオリンピック史上、歴史的なハンドボール初参加の意義を生かし、今後、ハンドボール競技が、わが国民の間にさらに認識され、これが体育スポーツ振興の力となることに期待して止みません。

関係者のご努力に敬意を表しつつミュンヘンでの活躍を祈念して激励のごあいさつといたします。

初のオリンピック参加にあたりて

日本ハンドボール協会
会長
田村正衛

去年の11月、アジア予選に勝って以来、私はじつに多くのかたがたから勝利への祝福をうけましたが、決まって「ハンドボールはいよいよこれからですね」という言葉を皆さんがつけ加えて話されたのが印象に残っています。

この一言には二つの意味があると思います。

一つは35年の地味な努力を実らせてようやくオリンピックという檜舞台に登場を果たし、ハンドボールが日本のスポーツ愛好者に認識されるであろうという〝期待〟。

一つは、予選を通過したといって喜んではいけません本番で頑張って下さいという〝激励〟。

オリンピックだけが日本ハンドボール協会の唯一無二の目標ではありません。しかし、アジア予選以後代表決定までのわずか8ケ月の間に、日本のハンドボールが大きな飛躍を遂げたことはまちがいありません。今さらながら〝オリンピック〟という名の魔力に驚くと同時にこの機会を与えて下さったJOC関係者、いつにかわらぬ御支援を賜った報道関係者をはじめ、この35年間、ハンドボールへ情熱を傾けられたすべてのかたがたに厚く御礼申しあげ、今後とも倍旧の御指導をお願いするものです。

日本のハンドボール界はいよいよこれからです。

「ハンドボール」8月号（第100号）目次

【表紙写真】ミュンヘンオリンピック代表選手　駒沢オリンピック公園（撮影・山田真市）

初の代表を送るにあたりて

日本協会理事長
荒川清美

昭和12年以来35年、ハンドボール競技を愛好した人たちはいったい何人になるだろう。

そのすべての人が夢に見ながら果たせなかったオリンピックへの出場を、いま12人の若者が果たそうとしている。

これ以上の幸運があるだろうか。

選手諸君。君たちはこの〝幸運〟を大切にして欲しい。この〝幸運〟に燃えて欲しい。

ミュンヘンをハンドボール発展の足がかりにしようとしているのは日本だけではない。オリンピック出場を夢に描いたのは世界各国すべて共通であったのである。それだけに聖火のもとにおける一試合々々は激烈を極めると思う。

私はオリンピックを目指した闘志において日本は列国に比べ優ることはあっても劣らぬことと確信している。勝利の女神は幸運と闘志をもたぬ者の頭上には輝かぬ。

オリンピック参加を果たすことによってハンドボールが日本人に適したスポーツであることが再認識されるであろう。今や一般社会と遊離してスポーツは存在しない。

初のオリンピック代表を送るにあたり、私自身も大いに燃えている……。

勝利の執念に燃えて……

日本協会オリンピック対策部長
村田弘

「ミュンヘンオリンピックは吾がハンドボール界のためにある」それは勝つことだと云っても過言でない。昨年11月28日オリンピックアジア予選に優勝し、出場権を獲得しオリンピック初出場の夢が叶いミュンヘンでの活躍に大いなる期待を持たれた。

選ばれたナショナルチームは全国ハンドボールの代表であると同時にアジアの代表としての自覚とプライドを持ってこの期待に答えなければならない。

36年ぶり7人制で初めてのオリンピックだけに又違った意味での異様な雰囲気に溢れることは事実である。このムードに呑まれず先づ第一に「勝利の執念」である精神力を集中すること。第二に勝つためには「防御だ」に死力で望むこと。第三に強豪の防御を打ち破る「スピードと正確で変化に富む」日本チームの特徴とする攻撃力を生かすことである。

強いチームワークのもとリラックスしてすべてに全力を尽くしていく覚悟です。

代表チーム・コーチ　竹野奉昭

オリンピックへの、参加を、三十五年ぶりに迎えるハンドボール競技——、しかも、日本のハンドボール界にとっては、初参加のミュンヘン・オリンピックのコーチに選ばれ、この時にめぐりあわせたことを、誠に幸運と思うと共に、この与えられた幸運を、悔なきものにしたい気持で一杯である。

世界選手権と異なり、オリンピックは、予選リーグから一戦一戦が勝負であり、各国とも三十五年ぶりのオリンピックへ、異常な闘志を燃やしてくるであろうことを予測し、私達もそれに敗けないだけの、精神力と闘争心をもって望みたい。

そして過去の世界選手権で、四度び挑戦した「ベスト8」の壁、「ヨーロッパの壁」を破るには、八月三十日——第一戦の対ユーゴ戦にかっているといっても過言ではない。このユーゴ戦に焦点をあわせ、日本の攻撃の特性を、生かし、日本人のプレーをしたい。又体格的に恵まれない防禦においては、守りのための防禦でなく、攻めの防禦に徹し、持てる力を十二分に発揮できるよう選手十二名と、一致協力して、死力を尽して頑張りたい。

残る三十日間の合宿で、今迄に積みかさねたものの上に更に、精神力、体力、防禦力を強化し、チームをひとつにまとめて、敗ないチームをつくりたい。

このミュンヘン・オリンピックを目指し、世界選手権、アジア予選まで共に闘い、青春をハンドボールのためについやし、努力してくれた選手諸君に、感謝すると共に、今日まで暖かい御支援を下さった。全国のハンドボール愛好者の皆様にお礼を述べ、ベストをつくすことを誓いたい。

代表チームコーチ兼選手　近森克彦

念願かなってミュンヘンオリンピック、日本ハンドボール界の、創立来の名誉ある一員になり、この機会にプレー出来たことを幸運に思うと同時に、皆様の期待に応ずべく自己の啓蒙と選手団の最年長として、チーム力向上に努力したく思います。私にとって今回のこの栄誉は、苦しみの中から摑んだものとして、貴重です。怪我や、病気の苦しさ、それを克服する精神力の維持の難しさ等、これらの体験を私なりチームに役立ててゆきたく思います。西ドイツは、私の第二の故郷であり、それだけに、出発が待遠しくてなりませんが、さてミュンヘンでは、日本はどの程度やれるだろうかは、はっきり言って未知数ですが、未知数の中からも明言できるのは80%の率で八位以内に残れるだろうということです。体力的ハンドボールのソ連と違い、技術のハンドボールのユーゴ、ハンガリーが相手だからです。過去の実績からも裏付けることが出来ます。その技術のハンドボール、即ち、得点のとりあいになった時、ディェンス力の違いが、勝負を左右することは間違いないことです。その意味から、私自身、デフェンス力の強化の一員となり勝利に役立ちたいと思います。

オリンピックという檜舞台は世界選手権とはまたちがった雰囲気でしょうし、それに呑まれずに相手を逆に呑んでやる気迫をもちコーチ以下全員、チームワークをもって目標に前進したいと思います（大崎電気・FP）

代表チーム主将　木野実

寝屋川高校一年生の時にハンドボールを教わってから十余年ボールを追っかけることに夢中でここまできました。ハンドボールを何年もつづけながら多くの先輩、同僚がオリンピックにめぐりあえず、幸にして私達がその年に出くわし、プレー出来うることは本当にラッキーの一言に尽きますがボールに触れる喜びから始まり、ボールが味方にうまくパス出来、そしてシュートを決めた時の感動と同じ様な興奮を今おぼえます。こうしてここまで育ててきて下さった先生、先輩諸兄に心からお礼申し上げます。又社会人となってから幸運にもプレー出来ましたのも、会社の皆様の暖たかいバックアップと深い理解それにチームメイトの協力のお陰でありそのチャンスを与えて下さったこと深謝致して居ります。大会は強敵揃いのチームばかりですが勝つチャンスは大いにあると思います。只、実力接近のチームが対戦した時ミスが一つでも多い方が負けることは当然です。小さなミスを大きな傷口にしない様踏んばり頑張らねばなりません。普段の練習から一つ一つ積み重ねがっちり固めている様心掛け練習していこうと思います。一時期が良かっても長丁場の大会、砂上楼閣にならないためにも全力投球あるのみだと考えます。残り少ない時間ですが一歩でも自分自身を向上させるべく努力し精進しなければと思っていま す。41年9月初めてナショナルチームに入れていただいた時の気持で原点にたちもどり大男の欧州チームを倒すべく頑張ります。（湧永薬品・FP）

全ては緒戦（対ユーゴ）が鍵

―ミュンヘンオリンピックを展望する―

藤本　強

幸運のくじ、いかに生かすか

今回の予選リーグD組、これはくじ運に恵まれたと云ってよかろう。今回こそ、1961年の第4回世界選手権に参加して以来の悲願であったベストエイトの壁が破れる公算が大である。

予選リーグ、どこに入ってもベストエイトの壁を破るには、強国二つをなぎたおしておかないことには、これら強国と一・二戦を戦う方式を採用している現状では、ベストエイト入りをするのは苦しい。今回は世界のベストエイトのうち、我国がもっとも分の良い二国をひきあてたことになる。最近の対戦成績はユーゴに1勝1分、ハンガリーに1勝1分1敗と五分以上の星を残している。しかし、ここ一番となった時の強さを、毎シーズン死闘をくりかえしているヨーロッパの中でもまれているだけにもっている両国、しかもユーゴは優勝候補の有力国、やはり苦しい戦いの連続となろう。

この両国に比較的好成績を収めているのは、両国とも〝技〟のハンドボールをするところにある。この両国には、ルーマニアのグルイア、東ドイツのロスト、ガンショーにあたるような〝大砲〟はいない。速攻をある程度の武器に、ポストプレー、カットインプレーを主体とし、全員が得点をあげる特色をもっている。

ユーゴはラザレビック、ラブルニックの二人を中心とした一瞬の変化の細いプレーで主として得点をあげるチーム、ハンガリーはマロシの変化にとんだフェイント、パスを攻撃の起点にしている。

これらの攻撃に対し、強化に専念してきた我国の防御陣がどのように対応するか。従来の両国との対戦を見るとお互いに点をとりつとられつの試合を行ない、かなりの大量点をとりあっている。

ユーゴは1・2・3防御を開発したステンツェルコーチが今冬はマンツウマン、1人をセンターライン付近にまで出して、5人で守り、一挙に速攻にもちこもうという5人防御などの奇策をもちいている。オリンピックの緒戦だけに彼がどのような秘策をもっているかは不明であるが、どのようなことがあっても慌てない覚悟が必要であろう。ハンガリーは攻撃は一流だが、守備は二流という定評があり、これが最上位へ登れない大きな弱点となっている。今冬の戦いぶりを見るとこの欠点は克服されていないようである。

対する我国は速攻の調子も一段とあがり、スカイプレーもメドがたってきたようだ。この両者を軸にすればある程度の得点は両国に対しあげることができよう。特にハンガリーに対してはかなりの大量点を望めよう。ユーゴの場合には、ステンツェルの奇策に慌てないことが重要である。特に緒戦、めまぐるしい守備の変化にとまどっているうちに試合がおわってしまったということをもっとも恐れる。慌てさえしなければ、これもかなりの得点をあげることができよう。問題は守備、ユーゴの細い鋭い動き、体重に振られないことハンガリーはマロシにごまかされないこと、この二つの解決がつけば、対等以上に戦うことができよう。

最大の難関は緒戦

特に問題は緒戦、ここで最大の難敵とあたることだ。まだ大会のふんいきになれていない、相手は奇策の持主、これさえ巧くすべり出せれば、展望はおのずと開けよう。竹野コーチもユーゴ戦に焦点を合わせると云う。36年来の悲願を果すためにも、ユーゴ戦のすべり出しに十二分のファイトと細心の注意が望まれる。

もし、不幸にして、緒戦に破れると、その後の展開は厳しいものになるが、おそらくアメリカに1勝したハンガリー、せっぱつまった日本の組み合せ、現在の実力からいけばやや有利とみたいが、この勝敗の差がどうひびくか。最終戦のアメリカは大量点をとるというような形の焦りがなければまず問題はなかろうが、安易な気持で臨むと思わぬ墓穴が待っていよう。ユーゴ―ハンガリーはユーゴ有利とみたい。緒戦の一丸となったファイトを期待したい。

東ドイツ・ルーマニア・西ドイツ・チェコ・スウェーデン有利か

A組はきわめてむずかしいが、ソ連、スウェーデン有利とみたい

デンマークはここのところ伸びなやみが見られる。いずれにしろ、守備力の勝っているチーム、12〜13点の争いとなろう。ポーランドはやや不利と見られる。結局上位リーグには、ソ連、スウェーデンもしくはデンマークの順で進むことになろう。

B組はよほどのことがない限り東ドイツとチェコの進出となろうおそらく東ドイツ、チェコの順となり、アイスランドが3位となろう。チュニジアはよほどの健闘がない限り難しい。

C組はルーマニア、西ドイツが進出するものと思われる。ノルウエーのいちじるしい成長ぶりが買われていて、西ドイツはシュミット、ムンクを内紛で欠く編成になってはいるが、ホスト国の面目にかけ、上位リーグに進出しよう。スペインはやっと出場権を獲得した国、これら3国を相手では荷が重い。

金メダルは東ドイツ、ルーマニアによる争いか

準決勝リーグ1組は東ドイツ、チェコ、ソ連、スウェーデンもしくはデンマークによって争われよう。ここでは、東ドイツがソ連を押えるのはまず間違いがないものと思われるが、スウェーデンがでてきた場合、かなりもつれることが考えられる。下手をすると前回の世界選手権の予選リーグの再現となり、三スクミの可能性もある。しかし、東ドイツ有利と見るのが順当なところであろう。次にどこがくるかは、その日のコンディションにも大きく作用される。

準決勝リーグ2組はルーマニア西ドイツ、ユーゴ、日本という形になることが予測される。

ここでは、我が国が予選リーグの緒戦でユーゴに対して勝っているか負けているかが大きなポイントとなってくる。幸いにも勝っていた場合には、まず西ドイツと当ることになる。この場合、今回の西ドイツ、ホスト国でありながら内紛のため、十分な選手団を編成できていない。しかもその主力選手は、最近対戦ずみの選手が多い。そう考えると決っして対等に戦えない相手ではない。巧くいくと、これに勝ち準決勝リーグで2勝することも可能性の強い話である。緒戦でユーゴに破れて進出した場合には、準決勝リーグ第二戦で入賞をかけての西ドイツとの争いになることが考えられる。この場合には、ホスト国の有利さが大きく物を云うことになってこよう。このようにその後の展開に緒戦ユーゴ戦の勝敗はきわめておおきな影響を残すことになる。

結局ここからはルーマニアが抜け出すことになろうが、西ドイツはルーマニアに対して自信をもっておりユーゴは西ドイツに自信をもっているというように、もつれることを考えられる。

順当にいけば、1・2位決定戦は東ドイツ—ルーマニアの顔合わせとなり、一昨年の世界選手権の再現となる可能性が強い。3位となるといささか困難ではあるがソ連もしくはスウェーデン—ユーゴ、西ドイツもしくは日本と云うことになろうかと予測する。

緒戦でユーゴを押えた場合には準決勝リーグ2組で2位になる可能性もあり、この場合相手国しだいでは、望みも出てくる。

このように緒戦、ユーゴ戦の展開はその後に多大の影響を与えてくる。不幸にして、ベストエイト入りを逃すと、ノールウェーと9〜12位決定戦予備戦を争うことになる。これは、過去ノールウェーに2勝の実績はもっているとは云え、ノールウェーの急成長ぶりを考えると全く楽観は許されない。幸いそれをのりきったとしても、9位決定戦の相手はデンマークもしくはスウェーデン、これもきわめて苦しい。

ユーゴ、ハンガリーに全力をつくして戦い、選手諸君は自己最高のプレーをこの2戦に出してほしい。各自のハンドボール生活に於ける最高のプレーが発揮されれば自ずと道は開けてこよう。

くじ運を利して、ユーゴとハンガリーを叩きこの機会にハンドボール界の悲願を達成してもらいたいものだ。

—オリンピック日程（日本関係）—

▽8月30日予選リーグ第1日
日　本——ユーゴスラビア
（19時・ゲッピンゲン）

▽9月1日予選リーグ第2日
日　本——ハンガリー
（20時15分・ボブリンゲン）

▽9月3日予選リーグ第3日
日　本——アメリカ
（18時15分・アウグスブルグ）

▽9月5日準決勝リーグ第1日
D組2位—C組1位（16時45分）
D組1位—C組2位（21時15分）

▽9月6日13位決定トーナメント1回戦
D組4位—C組4位（16時45分）

▽同9位決定トーナメント
D組3位—C組3位（21時15分）

▽9月7日準決勝リーグ第2日
D組1位—C組1位（16時45分）
D組2位—C組2位（21時15分）

▽9月8日
13・14位決定戦（15時30分）
11・12位決定戦（16時45分）
15・16位決定戦（20時）
9・10位決定戦（21時15分）

▽9月9日（最終日）
7・8位決定戦（10時）
3・4位決定戦（11時30分）
5・6位決定戦（21時）
1・2位決定戦（23時）

・時間は現地時間
・9月5日以降はすべてミュンヘン

予選リーグD組

相手国の成績を探る

—本誌調べ—

日本が、目標のベストエイト進出を果たすには予選リーグで2勝が最低条件。

そこで気になるのは相手国ユーゴスラビア、ハンガリー、アメリカの実力である。今シーズンの試合記録（公式国際試合のみ）をできるかぎり集めてみた。（編集部）

ユーゴスラビア

ユーゴ 16—12 オランダ
ユーゴB 21—13 ハンガリー
ユーゴ 30—16 スペイン
チェコ 17—14 ユーゴ
ユーゴB 10(分)10 ルーマニア
ユーゴ 22—13 ハンガリー
ユーゴB 25—17 オランダ
ユーゴ 13—10 ルーマニア
ユーゴB 17—7 スペイン
ユーゴ 13—10 ルーマニア

（以上の記録は46年7月の第11回タシマイダンカップ。優勝＝ユーゴ）

ユーゴ 29—15 スペイン
ユーゴ 21—16 ルーマニアB
ユーゴ 24—15 ハンガリー
ユーゴ 18—16 東ドイツ
ユーゴ 17(分)17 ルーマニア

（以上の記録は46年12月の第12回カルパティアカップ。優勝＝ユーゴ）

ユーゴ 15—11 ソビエト
ユーゴ 15—11 ノルウェー
ユーゴ 18—16 東ドイツ
ユーゴ 17—15 ルーマニア

（以上の記録は46年11月ヨテボルグ国際トーナメント。優勝＝ユーゴ）

ユーゴ 20—14 チェコ
ユーゴ 16—12 ハンガリー
デンマーク 16—12 ユーゴ
東ドイツB 13—12 ユーゴ
ユーゴ 16—11 東ドイツ

（以上の記録は46年12月のシュエリン国際トーナメント。優勝＝ユーゴ）

ユーゴB 23—13 ウクライナ
ユーゴB 20—19 ウクライナ
ユーゴB 18(分)18 ジョルジア
ユーゴB 23(分)23 ウクライナ
ユーゴB 13—9 ブルガリア
東ドイツB 18—17 ユーゴB
ユーゴB 23—20 ジョルジア

（以上の記録は46年12月トビリシ国際トーナメント）

ユーゴ 20—11 アイスランド
ユーゴ 22—15 アイスランド
ユーゴ 16(分)16 東ドイツ
ユーゴ 19(分)19 チェコ

（以上単発的な国際試合）

スウェーデン 14—13 ユーゴ
ユーゴ 17—15 ルーマニア
東ドイツ 22—19 ユーゴ
ユーゴ 29—13 ルーマニアB

（以上の記録は47年2月第13回カルパティアカップ）

ユーゴ 18—15 東ドイツ
チェコ 19—17 ユーゴ
ユーゴ 21—17 デンマーク

（以上の記録は47年3月チェコ国際トーナメント）

ハンガリー

（対ユーゴ戦は除く）

ハンガリー 13(分)13 ルーマニア
ハンガリー 21—19 チェコ
ハンガリー 21—19 チェコ

（以上の記録は46年7月の第11回タシマイダカップ）

東ドイツ 13—10 ハンガリー
ハンガリー 13—6 オランダ
ハンガリー 13—9 ソビエト
ハンガリー 15—9 ルーマニア

（以上の記録は46年12月の第12回カルパティアカップ）

ハンガリー 22—10 オーストリア
ハンガリー 23—17 スイス
東ドイツB 21—15 ハンガリー

（以上の記録は46年12月のウィーン国際トーナメント優勝＝ハンガリー）

ハンガリー 19—16 ルーマニアB
ハンガリー 27—16 スペイン
ハンガリー 19(分)19 東ドイツ

（以上の記録は47年2月の第13回カルパティアカップ）

東ドイツ 14—12 ハンガリー
ハンガリー 13—12 東ドイツB
ハンガリー 20—19 チェコ
ハンガリー 18—17 デンマーク

（以上の記録は46年12月のシュエリン国際トーナメント）

ハンガリー 17—12 スイス
ハンガリー 17—13 オランダ
ハンガリー 13—12 オランダ
ハンガリー 22—20 デンマーク
ハンガリー 21—15 デンマーク

（以上単発的な国際試合）

アメリカ

スウェーデンB 21—15 アメリカ
ノルウェー 29—10 アメリカ
スイス 28—17 アメリカ
オランダ 16—15 アメリカ
オーストリア 20—14 アメリカ
アメリカ 17—16 オーストリア
アメリカ 19—15 ベルギー

（以上単発的な国際試合）

アメリカ 33—11 メキシコ
アメリカ 22—13 アルゼンチン
アメリカ 15—11 カナダ

（以上47年2月のオリンピックアメリカ大陸予選。優勝＝アメリカ）

デンマーク 23—16 アメリカ
アイスランド 21—11 アメリカ
アイスランド 25—18 アメリカ
ノルウェー 17—10 アメリカ

（以上単発的な国際試合）

予想される3国の陣容

◆ユーゴ・GKジブコビク、アルスラナジク、ゾルコ・**FP**プリバニク、ブガルスキー、カラリク、ラブルニク、ミスコビク、ホルバト、ポクラヤク、ラザレビク、アレクシク、ラジックミルヤク

◆ハンガリー・GKホルバス、ザボ、**FP**マロシ、I・バルガ、シモ、バス、ハルカ、タカクス、カロ、スティラー、クシク、アゴストン

◆アメリカ・GKエデス、ハンダル、リブニヤク・**FP**アブラハムソン、バークホルツ、ベーカー、フラス、セラペード、ロジャース、ボエールカート、ティンクルカトン、デ・カロジェーロ、マッテューズ、シュレジンガー、スパン

世界女子、来年開催か

日本協会が得た非公式な情報によるとIHFは1973年に女子世界選手権を開催する意向のもよう。正式決定は8月に行なわれる総会になる見込。

試合時間変更か　最新の情報によると予選リーグ第2日・日本アメリカ戦の試合時間は9月3日21時15分に変更されている。

聖火に競う 16ケ国の横顔

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）の加盟国は49。そのなかから選びぬかれた16の代表の横顔をのぞいてみよう。

（編集部）

・ルーマニア・ ベルリンオリンピックに参加(5位)しているほど球史は古いが、世界のトップに躍り出たのは一九六〇年代に入ってからといってよい。

一九五九年の11人制世界選手権で準優勝した自信を活かし、一九六一年の第4回世界7人制に初優勝。決勝のチェコ戦は第2延長の末9—8という歴史に残る大激戦で、〝東欧時代〟の開幕を告げるものでもあった。以後、一九六四年の第5回大会にも優勝、第6回大会では3位に甘んじたが2年前の第7回大会で再び王座に返り咲いている。エース・グルイアをはじめ軍隊チームの選手が主力。一九六〇年11人制ナショナルが来日(10戦10勝)世界2位の実力をまざまざとみせつけた。

・東ドイツ・ 一九五九年の第5回世界11人制に西ドイツとの連合で優勝、その後、独立してＩＨＦに加盟、しばらくは11人制主体の時代をすごし、一九六三年の世界11人制では西と決勝を争い14—7で初優勝、一九六六年の世界11人制では西と優勝を分けあった（注・このあと世界11人制は開かれず廃会といってよい）

このあたりから7人制にも力を注ぎはじめ男女とも最強10クラブによる全国リーグを頂点に末広い底辺を拡げ、着々とその実力を伸ばした。一九七〇年の第7回世界選手権でルーマニアと80分（第2延長）の激闘を演じ惜しくも準優勝。今大会では最有力金メダル候補にあげられている。女子は昨冬一足さきにワールドチャンピオンとなった。

・ユーゴ・ 今シーズンヨーロッパ各国のなかでも最も好調を伝えられており、ナショナルチームは各トーナメントで優勝をつづけ、単独チームによる伝統のヨーロッパカップでもブジエロバルが宿願のタイトル獲得を果たしている。

日本同ようスピードプレーを得意としているのはヨーロッパでは異色で、守備でもかって1・2・3シフトを発表するなどその戦法はユニークである。

6年前からミュンヘン路線を確立、一九七〇年の第7回世界7人制で3位となり、今回の優勝に自信満々だ。これも14クラブによる最強リーグをトップにその下に積み重った層の厚さにあり、その数は120グループ一七二六チームに及ぶと伝えられる。

・デンマーク・ 7人制の祖国といわれる。この国の体育学者ホルガー・ニールセンが一八九八年にオルドルプの実業学校でこの競技を始めた、といわれるからだ。

冬の長い自然条件とあいまって室内球技としてハンドボールは人気スポーツとなり、第2次大戦後の世界ハンドボール界はデンマークを中心とする北欧勢によって握られた。

世界7人制での最高成績は一九六七年第6回大会の2位。〝アマチュア〟としての線をあくまで崩さず、強化もその範囲内に留めるなど頂点活動はむしろ地味。全国リーグの組織は10クラブによる1部の下に2部2グループ、3部4グループなどがある。

・西ドイツ・ ベルリン大会についで2度目のオリンピックホスト国となったのも、この国とハンドボールの深い結びつきを示すものであろう。

第一次大戦直後からドイツにおけるハンドボール(11人制)の普及はめざましいものがあり〝国技〟〝民族のスポーツ〟とまでいわれるようになった。有力な選手が育ち優秀な戦法が次々とあみ出されベルリンオリンピックでの優勝をはじめ、11人制では圧倒的な強さを誇った。しかし、11人制の伝統を守るがあまり、7人制では世界の流れにやや立ち遅れ、グンメルスバッハ（ヨーロッパカップ3回優勝＝昨春来日）という強豪クラブは生まれたもののナショナルチームの成績はもう一つパッとしていない。

・スウェーデン・ デンマークと並ぶ北欧の雄。むしろ世界における成績はデンマークをしのぎ、特に第2次大戦後の成長は目を見はるものがあった。

一九五四年の第2回世界7人制と五八年の第3回に連続優勝を果すとは誰も予想しなかったものであり、内外にスウェーデン・ハンドボールの位置づけを果した。

東欧勢の進出にもっとも闘志を燃やしているのはこの国といわれ前回(一九七〇)の世界選手権予選で東ドイツ、ソビエトに囲れながら東ドイツを叩きベストエイトに進出したのもその現れといえよう

流れいなテクニックとパワーの使い分けは定評があり、ミュンヘンを目指すナショナルチームは昨秋来日、全日本と3勝1敗だった

・チェコスロバキア・ 現代世界ハンドボールの最上位に君臨する東欧勢の旗手となったのはチェコである。一九五八、一九六一年の世界7人制で準優勝。ワールドタイトルの獲得はルーマニアに先をこされたが、一九六七年の第6回大会で名将ケーニッヒに卒いられみごとに優勝を果たした。

ナショナルの主流はつねにプラハの軍隊チーム〝デュクラ〟で、このクラブはヨーロッパカップでも優勝2回、準優勝2回を記録している。

前回の世界7人制では新人の力が伸び切らず7位に甘んじているが、ミュンヘンには再び王座を狙って充実した陣容を送りこむことだろう。注目のダークホースだ。

・ハンガリー・ 女子では男まさりのパワーハンドボールでつねに優勝を争っているが男子は対照的にテクニカルなパスフォーメーションを主体にした華麗なチームプレーを特意とする。

ベルリン大会にも参加（4位）している古参だが、世界7人制ではあまり派手な記録を残していない。しかし毎回ベストエイトに食いついているあたり（注・最近3回いずれも8位）堅実なチームともいえる。

協会創立は一九三三年で、7人制主体に切り替えたのは一九五九年から。前回の世界7人制で8位となりミュンヘンへの出場権を獲

得、それを機に新鋭選手に主力を切り替えたとも伝えられる。日本とはこれまで2勝1敗1分。

ソビエト　歴史が浅いにもかかわらず初参加の一九六四年の第5回世界7人制で5位第6回で4位とその力をあげていたこの国が、2年前の第7回で8強からふるい落とされたのは意外であった。金メダル路線に狂いが生じたのは否めない。

今春のヨーロッパ予選では優勝はしたものの決勝ではノルウェーに1点差の接戦。完全に立ちなおっていない、とみる人もある。

しかし、爆発的な攻撃力をもつマキシモフ（前回世界選手権の得点王）を中心に、ミュンヘンで一気にその力を発揮させ、国内におけるハンドボールの立ち場を好転させようとする意気ごみはすばらしい。

日本　一九二〇年代（大正末期）に学校体育として紹介されたが、競技スポーツとしては芽生えが遅く、一九四〇年の東京オリンピック実施がきっかけとなり日本協会などが設立され、以後学連を中心に着実にその地固めが行われて来た。

現在の日本協会登録チームは男女合わせて一六八二。競技人口は四万五千、未登録者や中学生競技者を加えれば五万人前後とみられる。登録チームの7割は高校生。

世界選手権にはこれまで男子が4回、女子が3回参加している（いずれも7人制）。男子の最高成績は一九七〇年の10位。

国内における7人制への切替えは男子が一九六三年、女子と中学生が一九五七年。7人制一本化によって実業団球界が発展。男女ともナショナルチームの主流は社会人が占めるようになった。

ノルウェー　世界7人制では第4回（一九六一）の7位がこれまでの最高だが、今大会もっともその試合ぶりの注目されている国だ。

というのも前回の世界選手権で激戦グループ（東ドイツ、スウェーデン、ソビエト）に加わり大健闘、惜しくもベスト8入りは逸したが、その実力を高く評価された

それから2年、その力は着実に伸びておりルーマニア、ソビエトなどとも互角に戦っている。

ノルウェー躍進の一因となったのは実は日本。一九六四年の世界選手権で日本に敗れ、雪じょくを期した一九六七年の大会でも敗退

これをきっかけに陣容を一新した成果が一九七〇年の活躍に実り今夏へつながっているのである。

アイスランド　この国におけるハンドボールの人気は高い。サッカーにつづく関心を集め、国際試合のたびに大観衆を動員、IHF筋でも話題となっている。

ハンドボール人口は六千人、というと少いがこの国の総人口は21万人、つまり35人に1人がハンドボール競技者というわけである。

一九六四年の第4回世界7人制で5位となり、大いにその後の飛躍を期待させたのだが鳴かず飛ばずに終っているのは不思議である

長身選手をつねに各国のトップを切ってメンバーに加えているのも注目され、パワーハンドボールに一つの形をつくりあげようという努力がみられる。

ポーランド　一時期強い力を示し、一九五八年の第3回世界7人制では第5位にランクされたほどだが、一九六〇年代に入ってからは精彩を欠いている。

オーソドックスなハンドボールをみせることでは定評があり、有力国も「ポーランドは恐しいとは思わぬが決して軽視はできない」としている。今大会の組み合せはやや不運だが思わぬ風雲を呼びおこさぬとは限らない。

ヨーロッパ予選でも手固い試合ぶりで第4代表となっており、前回の世界選手権代表10人が健在。

競技人口は男子六千、女子四千チーム数は男女合わせて九百クラブといわれ、このほか最近はジュニア（六百クラブ、一万人）が増えている。

スペイン　最近めきめきと力を伸ばして来た国だ。

プレイヤーの実力よりも、アルベルト・ロマン会長（IHF次席副会長）を筆頭とするスペイン協会の積極的な進出ぶりが先行、役員の情熱が競技者たちを引っぱりあげている。

また、ジュニア対策も意欲にあふれており、各国に先がけて〝ミニ・ハンドボール〟の研究を行い少年・少女層への普及を企っている。世界学生選手権ではつねにベスト6へ食いこんでいるのはその成果として注目される。

地元で開いた今春3月のオリンピック予選では辛くも5番目の座を確保、ミュンヘンへ滑りこんだが、今後の発展が大いに期待してよい。

アメリカ　この国がベルリン大会に参加（6位＝出場6ケ国・11人制）していることを知っていた人は少い。

しかし、その後はほとんど無活動に近く、一九五九年、連盟が正式発足してから本格的な動きをみせるようになり、腕をみがきあったカナダを退けて2度目のオリンピック出場を果たす。

登録されている競技人口は北米を中心に千人程度と伝えられるが最近は軍隊のスポーツとしてクローズアップされて来ており、立川など日本の基地でも行われるようになった。

ミュンヘンへの意欲も高く、ナショナルチームがしきりとヨーロッパに出かけており、その実力は確実に上がっているとみられる。

チュニジア　アフリカ諸国におけるハンドボールの発展はめざましいものがあるが特にチュニジアの進境は著しい。

今回も自国にアフリカ予選を招きミュンヘンへの自信を誇ったが実力も「参加するだけではない」

チュニジアへの種まきは、フランスとも西ドイツとも伝えられるが、今回のオリンピック出場にあたってはルーマニアからコーチが送りこまれた。

国内における関心も高まっているようでサッカーにつぐ人気スポーツだ、という。世界選手権には一九六七年に一度出ている。チュニジアの試合ぶりは、アフリカ地域そのものへの〝励まし〟にもなり注目したい。

世界7人制歴代優勝国（男）

回	年	優勝国
①	1938	ドイツ
②	1954	スウェーデン
③	1958	スウェーデン
④	1961	ルーマニア
⑤	1964	ルーマニア
⑥	1967	チェコ
⑦	1970	ルーマニア

第7回大会順位（1970・パリ）

①ルーマニア	②東ドイツ
③ユーゴ	④デンマーク
⑤西ドイツ	⑥スウェーデン
⑦チェコ	⑧ハンガリー
⑨ソビエト	⑩日本
⑪アイスランド	⑫フランス

選手原稿

オリンピック代表に選ばれて

FP　飯田誠行

「アナタオミユンヘンオリンピックダイヒョウセンシュニシメイシマス」――6月11日午後3時30分だった。日本協会からの電報を受けた時、これほど重大なものを手にした責任と光栄に身が引きしまり、この時代に巡りあわせた幸運を喜ばずにはいられなかった。

高校、大学、会社などで周りの方々の暖かい声援をつねにうけて栄誉ある選手となれたことは一人私だけの喜びにとどまるものではありません。

時間が経つにつれ重責と喜びがいっそう強いものになって来たが参加する以上は、なんとかして好成績をあげるべく努力するのが、この幸運への唯一の報ゆる道だと思っている。私は今、一つの夢を描いている。「ミュンヘン体育館に日章旗上る。日本ハンドボール界の永年の夢ここに実現」このような見出しが新聞紙上で報道されることを―。

ふり返れば四十四年のヨーロッパ遠征。第7回世界選手権大会。昨年のアジア予選など、厳しい強化を「ハンドボール」と云う一つの名称のもとにやり遂げて来た。選手ばかりではない。ハンドボールに関係した老いも若きもすべての人が一丸となっていたのだ。

残る目標はミュンヘンにて日の丸をあげることではなかろうか。

〝幸運の電報〟を今手にして喜びとか光栄とかをしみじみ味わっているヒマは実はない。合宿々々トレーニング々々である。

ミュンヘンにおいて日の丸を仰ぐための努力、ベスト8へ入る精進。結果は後にしかでない。しかし最後の時に「自分はやったのだ!!」と悔いの残らぬよう励みたい。

明日のあとに明日はない。明日の先はまた明日と、明日を求めてハンドボールは行く、のである。

GK　下里敏彦

一九七二年六月十一日、この日は自分にとり、生涯忘れることのできない日となった。

選手を選衡を行なっているであろうその時間を何と残酷な、そして何と長い時の刻みであったと、感じたろうか……。

今改めて思い興すたび一人苦笑してしまう。しかしスポーツ選手ならば、一度はこの日を夢み猛練習に血と汗と涙を、おしみなく流すだろう。

この世界の祭典、〝オリンピック〟に日本の代表として、選ばれたのだ。

三十六年ぶりに五輪種目に加わったハンドボール競技。今後国内での盛衰が自分の双肩にかかっているのだと云う責任感。やはり、この上ない栄誉と感激に身の引き締まる思いがする。

幸運と云うべきか、予選リーグでの対戦は、一度ならず二度までも対戦経験のあるユーゴ、そしてハンガリーと米国。

ユーゴは世界選手権で、三位とは云うものの、日本は引き分けて

攻守の三本柱―左から近森、飯田、木野。三人三様の持ち味が「全日本」のプレーをいっそう多彩にしている。

日本ハンドボール協会ミュンヘンオリンピック代表選手名簿

		年令	所属チーム	身長(cm)	体重(kg)	胸囲(cm)	背筋力(kg)	握力(kg) 右	握力(kg) 左	垂直跳(cm)	サイドステップ	上体そらし	肺活量
GK	下里　敏彦	(26)	大崎電気	184	73	92	152	59.5	52	53	47	43	3600
GK	本田　洋	(25)	大阪イーグルス	179	78	98	212	67.5	54.5	66	54	60	5040
FP	近森　克彦	(26)	大崎電気	183	78	94	150	59.5	47.5	58	48	66	5320
FP	木野　実	(26)	湧永薬品	182	76	91	155	68.5	57.5	62	50	71	5120
FP	飯田　誠行	(26)	大崎電気	187	78	92	144	60	51.5	59	48	63	6000
FP	野田　清	(26)	大同製鋼	169	67	94	160	44	46.5	72	52	69	4400
FP	早川　清孝	(25)	湧永薬品	180	74	93	170	59	48.5	63.5	52	77	5400
FP	有永　修二	(23)	東京海上火災	187	83	95	178	60	66.5	65.5	50	66	5720
FP	中井　武三	(23)	大同製鋼	180	80	91	144	59.5	54	76.8	52	61	4880
FP	新実　俊夫	(23)	本田技研	180	78	94	…	54	…	66	51	70	5480
FP	氷海　正行	(22)	千葉教員ク	180	75	96	148	61.5	51.5	58	…	71	6360
FP	佐々木健一	(22)	中央大学	170	70	91	138	60	50	68.5	52	69	5680

おり、互角に戦えるチームだと思っている。

お互に手の内を知っているだけに、あとはチームワークと、そして勝つと云う気迫と精神力とで何としても、勝利へ結びつけたい。

自分の持てる力を十二分に発揮し悔いのない試合を行ないたい。

GK 本田　洋

ミュンヘンオリンピック競技大会の出場メンバーに選ばれましたことは、私の一生涯の誇りと喜びです。

より速く、より高くより強くと掲げられた標語のもとで、36年振りに各国のハンドボールが、その国独自の歩みの姿で勝敗を決するのである。40m×20mのコートの中で、前後左右、上下を静と動でもって、いかに百分の一秒を使いこなし得るかが決め手になります

未熟な私に与えられた、この栄誉に恥じることなく、日本人としての自覚をもって精進することを誓います。

FP 野田　清

斯界初のオリンピック選手に選ばれハンドボールマンにとって最高の光栄であると考えています。しかしながら、斯界の盛衰をかけたオリンピック大会を思うと、その責任の重さがヒシヒシと感じられます。反面、スポーツマンにとってこれほどやりがいのあることはないと思います。

オリンピックの組合せも、Dゾーンに決定し、相手国をみると、よく手の内を知った相性のいいチームですが日本と同様、オリンピック強化でこれらの国も我々の想像を上廻る力を貯わえているものと考えられます。

本大会まで残された日々も数える程に迫ってきました。この残された期間、悔いのないトレーニングをつみベストコンデションで本大会にのぞみ、みなさんの期待に添える成績をあげるべきく、最善の努力を払って頑張ってくる覚悟です。

FP 早川清孝

アマチュア・スポーツマンにとって最も栄誉であるオリンピック出場選手に選ばれましたことは、私自身又家族にとりましても最高この上もない悦びであります。

このたび私が選出されましたことは、ひとえにこれまで御指導御支援下さいました、高等学校、大学における諸先生、先輩のお蔭と存じ又、現在勤務致しておりますワクナガ薬品株式会社の社長・副社長をはじめとする社員皆様の暖かい御声援の賜と感謝して居ります。

ハンドボール競技がオリンピックの種目として取上げられるのは三十六年振りと聞いております。このような千載一遇の機会に幸運にも、代表選手として選ばれましたことは身に余る光栄であり、その責務の重大さを痛感する次第であります。

この上はオリンピック精神にのっとり、日本代表として恥かしくないよう粉骨砕身戦って参ります。「参加することに意義あり」も大切かも知れませんが、一歩飛躍致しまして、「勝つことに意義あり」の精神で邁進致してまいります。どうか今後共暖かい御支援を賜りますよう御願い申し上げます。

折り紙つきのGK陣…本田（左）と下里

FP 有永修二

「35年目の執念」――これが今日本のハンドボール愛好者の合言葉である。

どうにかしてハンドボールを国内でもっと人気のあるスポーツにしようというのが我々の夢であった。

いつもバレーボールを見ては畜生と思い、サッカーを見ては「ウーン」とうなっていたのがハンドボールマンであったと思う。

そして、いまにみとれと毎日

々々ボールを投げた。ミュンヘンに向かって――。

今、ハンドボール界はミュンヘンにかけている。

その晴れのオリンピック代表に選ばれたということは、非常に光栄なことであり、また、その重大な使命を考えるとおそろしい気がする。

代表に決まった時、私はなんとラッキーなんだと思った。36年間幾多という選手が血のにじむような努力を繰り返し、技術的にももっと優秀な先輩の方々が、ただオリンピックという機会がなかったというだけで、また私がこのチャンスに巡り合わせたというだけの違いである。実に幸運であるとしか云えない。

それから、私ともう一人、新実君が「左きき」である。今でこそ「ペンと箸」は右であるが、幼稚園の頃はすべて左であった。「ギッチョ、ギッチョ」とバカにされた。

悔やしくて右になおした。だがその左腕が役に立つ。稀少価値というやつである。不思議なものだ

ミュンヘンでは、代表の名に負けない様、今まで以上にガンバリたいと思う。

最後に、この誌面をおかりして御指導御鞭撻いただきました皆様に、そしていつも応援いただきました皆様に心からお礼申しあげます。

期待の左腕アタッカー新実（左）と有永

FP 中井武三

〝オリンピック〟それは世界のハンドボール愛好者が、三六年ぶりにむかえた晴れの大会であり、日本のハンドボール界にとっては、初のオリンピックであります。このオリンピック選手に選ばれたことは非常な名誉であり、ことばにいいあらわせない喜びでいっぱいです。しかし、斯界の盛衰をかけたオリンピック大会を思うと、その使命の重大さがひしと感じられます。

幸いにも予選リーグは、D組(ユーゴ、ハンガリー、米国)と、いずれも世界選手権やルーマニア遠征で二、三度戦って五分五分の成績を残している相手だけに、やりやすい反面、戦いにくい相手でもあります。が各国選手に敗けない精神力をもって、最高の力をだしきり日ごろ鍛えた技を駆使し、皆さまがたのご期待にそえるようがんばってまいります。

FP 新実俊夫

初めて、ハンドボール競技を始めた頃から、夢見ていた、オリンピック出場を、自分のものとして実現した今、ここに至るまでの、苦しみよりも、全国ハンドボールマンを代表して、晴れの舞台で、プレーする事のできる幸せと、喜びと共に、改めて自分のたたされた責任の重大さを痛感しております。出場する以上、あと残された数十日余りの練習に全力を、そそぎ、心技をみがき、きたる大会に臨んでは、この大会が、重要な、意義をもっている事からも、世界の上位を目指し、一戦一戦に、最大の努力を尽くす事は、当然な事であると思います。また、世界の最高のチーム、並びに、よきプレヤーから、自分の目なり体で、学び取り、出来る限り自分のものとして、来たるべき、ハンドボール界の隆盛の一端をになうにたりる人間となって、帰りたく思っています。

FP 氷海正行

今年はオリンピック種目にハンドボールが三十六年ぶりで実施という幸運に恵まれて、私のハンドボールが実を結んだ年であると言えます。

中学一年から十一年間、ただハンドボールを追い続けた毎日でありました。中学時代は器用とは言えなかった私にとって苦しみの戦いでもありましたが、環境に恵まれたこともあってか、私にとってハンドボールは厳しさの中にも引きつけられた種目になりました。こうしてハンドボールに病みつきになった私は、高校、大学とそれぞれの環境の中で、より高い指導者に鍛えられ、磨かれていったのです。

私も大学一年の時には大きな出来事に見舞われました。試合中右肩骨折という事故で二ケ月程入院生活を送り、退院した時はボールも満足に投げられない状態になり、仲間が元気に練習をやっている姿を見ては、今一度思いきりプ

レーをやりたい！　その一念で毎日トレーニング場に通い、一年目にしてやっと自分の思うプレーができた時の喜びの気持ちを昨日のことのように思い出します。

今回のオリンピック選手に選ばれた感激を忘れることなく、ミュンヘンに向って大きく踏み出していきたいと思います。

FP　佐々木健一

オリンピック代表に選ばれ、私には過大な光栄であると共に身に迫まる重責感でいっぱいです。

オリンピック出場これは日本ハンドボール界の念願で有り、諸先輩方の長い間の願望であった事と思うと、尚更責任の重さを感じるとともに、私がこの時期に現役選手でいた事を最高の嬉びであると考えています。この嬉びをオリンピック大会での六位以上入賞を果し、二重の嬉びにしたい。ナショナルチームでは、一番の若輩ではありますが、現在、私の持てる力更にこれからの強化合宿で監督、コーチ、及び諸先輩の御指導を仰ぎ、技術、精神力の向上に努め、目的達成の為に精一杯頑張って来る覚悟です。

＜注＞近森克彦、木野実両選手の原稿は本誌3頁参照

オールラウンドタイプ。堅実なプレーに定評のある左から中井，氷海，早川

各地で公開試合

オリンピック代表チームのテストマッチ(公開)を、いずれも各地元チームと次の日程で行う

▽8月7日徳山市▽8日大阪市（中央体育館）▽9日京都市

竹野コーチ(補助役員)も選手登録

日本オリンピック委員会（JOC）は7月20日、ハンドボールオリンピック代表チームコーチ（補助役員）竹野奉昭氏の「選手登録」を認めた。これで代表チームの構成は選手兼コーチ1、選手11、補助役員兼選手1となった。

オリンピックには、役員2、選手16を登録できるため、日本協会は故障者が出た場合の対策として一人でも多く選手を登録したい、とJOCに要望していたもの。

なお、JOC内の資格は補助役員のまま。

荒川理事長の話　竹野コーチの選手登録はあくまで故障者対策で現役復帰ではない。よほどのことがない限り彼を〝起用〟することはないだろう。

絶妙のシュートを誇る野田（左）と佐々木。彼らのプレーは“ミュンヘン”を沸かすだろう。

—8月17日、ミュンヘンへ—

オリンピック代表チームは8月14日東京・岸記念体育館で行われる「日本選手団結団式」に臨んだあと15日練習（日本青少年総合センター）、17日21時30分羽田発のチャーター機（日本選手団第2陣）でミュンヘンへ向かう。

竹野補助役員（コーチ）、村田オリンピック対策部長（日本協会派遣）も同機で出発する。なお、帰国は9月14日羽田着（日本選手団第2便）の予定。

オリンピック代表決定まで……

昭和41年6月、ミュンヘンオリンピックでハンドボール競技の実施が確定して以来、この6年間に日本協会へ登録された延15万人の男子選手はすべて「オリンピックプレイヤー」を目指していたといっても過言になるまい。
なかでも41年9月27日に発表された「オリンピック強化選手」を皮切りに機あるごとに精選されたナショナルプレイヤー（68名＝本誌調べ）は栄光へ最短距離にいたエリートといえる。
晴れの代表12名とともに彼らの努力もまたミュンヘンへの道に欠かせぬ存在であった——。

栄光めざしたエリートたち

◇41年9月・ミュンヘンオリンピック強化選手兼第6回世界選手権候補選手（28名）▽GK　福本弘（大崎電気）、尾形譲(立大)、高橋邦男(埼玉教員)、竹下洋一(中大)▽FP近藤信行、関根邦夫、近森克彦、山田透（以上芝浦工大）竹野奉昭、北村尚英、井上素行、金田純男(以上大崎電気)、安達精太江名英彦(以上全立教)、木野実、北村文雄(以上立大)、林政弘、飯田誠行（以上同志社大)、吉金勇(常盤工業)、青木義男（大阪イーグルス)、飯端寿昭(関学)、青木孝次(千代田印刷機製造)、池田鉄哉(全神奈川)、越智節生（宗形製作所)、平岩忠（関大)、北井晴次(埼玉教員)、大西武三(東京教大)高橋実(桜丘会)＝以上昭和41年度ナショナルチーム

◇41年12月・第6回世界選手権代表　〜42年1月・スウェーデン〜(15名)▽GK尾形譲(立大)、竹下洋一(中大)▽FP近藤信行、関根邦夫、近森克彦、山田透（以上芝浦工大)、木野実、北村文雄(以上立大)、飯端寿昭(関学)、青木義男（大阪イーグルス)、江名英彦(全立教)、北井晴次(埼玉教員)、吉金勇(常盤工業)、飯田誠行（同志社大)、大西武三(東京教大)

(注)42年2月から43年12月の間、特に「ナショナルチーム」は編成されていないが、42年9月、来日した西ドイツ選抜軍と対戦のため次の15名による「全日本」を編成ただしこの試合は公式国際試合扱いにはされていない。
▽GK福本弘(大崎電気)、島崎政治(大阪イーグルス)、上野清（東京教大）▽FP竹野奉昭、井上素行、西村功、金田純男、近藤信行加藤建文(以上大崎電気)、木野実北村文雄（以上立大)、平岡秀雄(東京教大)、北井晴次(埼玉教員)近森克彦（芝浦工大)、樫塚正一(日体大)。

◇43年12月・第7回世界選手権第1次候補選手(40名)▽GK福本弘下里敏彦(以上大崎電気)、川口宗一郎(立大)、本田洋(日体大)、尾形譲(三景)、綿貫敏雄(早大)▽FP井上素行、竹野奉昭、西村功、近藤信行、飯田誠行、近森克彦(以上大崎電気)、野田清、東一敏小野口正二郎、有永修二（以上立大)、早川清孝、井上亮一、藤中憲二、谷藤勝美、斎藤光男（以上日体大)、森宗春、新実俊夫、明石雄次(以上芝浦工大)、木野実、北村文雄(以上全立教)、森山清、植木一久(以上中大)、松浦末義、中井武三(以上同志社大)、江名英彦(三景)、加藤久勝（住友化学菊本)、市原則之（全広島)、北井晴次(埼玉教員)、飯端寿昭（三国丘ク)、福井稔（大阪イーグルス)、平岡秀雄（東京教大)、大山高英(法大)、鈴木幸男(早大)、藤井良彦(明大)

◇44年2月・第7回世界選手権第2次候補選手兼ヨーロッパ強化遠征選手(17名)▽GK本田洋（日体大)、福本弘、下里敏彦（以上大崎電気）▽FP竹野奉昭、井上素行、近藤信行、飯田誠行、近森克彦(以上大崎電気)、野田清、東一敏、有永修二、木野実（以上全立教)、藤中憲二、早川清孝(以上日体大)、北井晴次（埼玉教員)、平岡秀雄(東京教大)、中井武三（同志社大）＝以上昭和44年度ナショナル・チーム

◇44年5月・全日本男子強化選手(23名)▽GK綿貫敏彦（東京教員ク)、川口宗一郎（全立教)、尾形譲(三景)▽FP森宗春、新実俊夫明石雄次(以上芝浦工大)、谷藤勝美、斎藤光男、井上亮一（以上日体大)、森山清(中大OB)、福井稔（大阪イーグルス)、植木一久(中大)、江名英彦(三景)、西村功(大崎電気)、加藤久勝（住友化学菊本)、飯端寿昭（三国丘ク)、市原則之（全広島商大)、北村文雄(日本発条)、大山高英(日進商会)小野口正二郎（立大)、松浦末義(同志社大OB)、藤井良彦(明大)鈴木幸男(早大)＝以上昭和44年度ナショナルBチーム

◇44年9月・第7回世界選手権第3次候補選手(21名)▽GK福本弘下里敏彦(以上大崎電気)、本田洋(日体大)▽FP竹野奉昭、井上素行、近藤信行、近森克彦、飯田誠行、平岡秀雄、東一敏（以上大崎電気)、木野実、早川清孝(以上ワ

クナガ薬品)、藤中憲二、斎藤光男(以上日体大)、小野口正二郎、有永修二(以上立大)、江名英彦(三景)、野田清(大同製鋼)、植木一久(中大)、中井武三(同志社大)、新実俊夫(芝浦工大)

◇**44年12月・第7回世界選手権代表**〜45年2月・フランス〜(14名)▽GK本田洋(日体大)、下里敏彦(大崎電気)▽FP竹野奉昭、近藤信行、近森克彦、飯田誠行、東一敏(以上大崎電気)、木野実、早川清孝(以上ワクナガ薬品)、藤中憲二、斎藤光男(以上日体大)、江名英彦(三景)、野田清(大同製鋼)、中井武三(同志社大)。

◇**45年4月・ミユンヘンオリンピック**(アジア予選)**第1次候補選手**(19名)▽GK本田洋(日体大)、下里敏彦(大崎電気)、大村久(日体大=45年9月追加)▽FP竹野奉昭、近藤信行、飯田誠行、東一敏平岡秀雄(以上大崎電気)、木野実早川清孝(以上ワクナガ薬品)、野田清、藤中憲二(以上大同製鋼)、斎藤光男(日体大)、中井武三(同志社大)、有永修二(立大)、新実俊夫(芝浦工大)、花輪博(中大)、江名英彦(三景=45年9月辞退)、近森克彦(大崎電気=同)=以上昭和45度ナショナル・チーム

◇**45年12月・ミユンヘンオリンピック**(アジア予選)**第2次候補選手**(17名)▽GK本田洋、大村久(以上日体大)、下里敏彦(大崎電気)▽FP近藤信行、飯田誠行、東一敏(以上大崎電気)、木野実、早川清孝(以上ワクナガ薬品)、野田清藤中憲二(以上大同製鋼)、斎藤光男、氷海正行(以上日体大)、平岡秀雄(東京教員ク)、有永修二(立大)、中井武三(同大)、新実俊夫(芝浦工大)、花輪博(中大)=以上昭和46年度ナショナル・チーム

◇**46年7月・ミユンヘンオリンピック**(アジア予選)**第3次候補選手**(19名)▽GK本田洋(大阪イーグルス)、下里敏彦(大崎電気)、大村久(全日体大)▽FP近藤信行、近森克彦、飯田誠行、東一敏(以上大崎電気)、野田清、藤中憲二、中井武三(以上大同製鋼)、木野実、早川清孝(以上ワクナガ薬品)、新実俊夫、大江隆夫(以上芝浦工大)、花輪博(中大)、平岡秀雄(東京教員ク=46年8月辞退)、斎藤光男(群馬教員ク)、有永修二(全立教)、氷海正行(日体大)

◇**46年10月・ミユンヘンオリンピックアジア予選代表選手**(16名)▽**GK下里敏彦**(大崎電気)、**本田洋**(大阪イーグルス)、**大村久**(全日体大)▽FP**飯田誠行**、**近森克彦**、**東一敏**(以上大崎電気)、**中井武三**、**藤中憲二**、**野田清**(以上大同製鋼)、**木野実**、**早川清孝**(以上ワクナガ薬品)、**新実俊夫**、**大江隆夫**(以上芝浦工大)、**有永修二**(東京海上火災)、**斎藤光男**(群馬教員ク)、**氷海正行**(日体大)

◇**47年1月・ミユンヘンオリンピック第1次候補選手**(25名)▽GK下里敏彦(大崎電気)、高橋誠(日体大)、本田洋(大阪イーグルス)、馬渕豊明(立大)、大村久(全日体大)▽FP近森克彦、飯田誠行、東一敏(以上大崎電気)、野田清、中井武三、藤中憲二(以上大同製鋼)、氷海正行、松岡猛、浅原俊治(以上日体大)、佐藤要二、佐々木健一、花輪博(以上中大)、木野実、早川清孝(以上ワクナガ薬品)、新実俊夫、大江隆夫(以上芝浦工大)、有永修二(東京海上火災)、斎藤光男(群馬教員ク)、高梨豊(三景)、荒井正人(法大)=以上昭和47年度ナショナル・チーム

▽**47年4月・ミユンヘンオリンピック第2次候補選手**(18名)▽GK下里敏彦(大崎電気)、本田洋(大阪イーグルス)、大村久(山梨教員ク)、馬渕豊明(全立教)▽FP近森克彦、飯田誠行、東一敏(以上大崎電気)、野田清、藤中憲二、中井武三(以上大同製鋼)、大野実早川清孝(以上ワクナガ薬品)、有永修二(東京海上火災)、斎藤光男(群馬教員ク)、新実俊夫(本田技研)、氷海正行(千葉教員ク)、大江隆夫(三菱レイヨン)、佐々木健一(中大)

◇**47年6月・ミユンヘンオリンピック代表選手**(12名)**決定**

ミユンヘンオリンピック

ハンドボール競技要項

2章1条1項、オリンピックハンドボールトーナメントは男子チームのみの室内競技とする

2・1・2　参加チームは16ケ国としいずれもIHFの加盟国でなければならない

2・2・1　各国は16人の競技者を指名することができ、これらの競技者はIHF規則第37条に従ってそれぞれが代表する国の国籍をもたねばならない。

2・4・2　それぞれの国内オリンピック委員会を通じて提出される16名の競技者の氏名を含める最終的エントリーは、組織委員会の手もとに8月15日24時（中央欧州時間）までに届かねばならない

2・5　オリンピックハンドボールトーナメントは各試合後、IOCメデイカルコミッションが定めた指図に関する試験が行なわれる。

3・1　オリンピックハンドボールトーナメントに関する技術面の組織の責任はIHFが負う

3・3・2　主要ラウンド（準決勝リーグ）の順位を決めるために2日間以上の競技を必要としないため予選リーグで行なった試合の得点数が考慮される

3・4・1　予選リーグは延長を行わない。勝ち点は次のように評価する。勝ち…2点、引き分け…両チーム1点づつ、負け…0点

3・4・3　勝ち点が同点の場合はゴール差によって順位を決める。ゴール差とはすべての関係試合において相手チームが得点したゴール数をそれぞれの同試合において問題のチームが得点したゴール数から引き算して算出、プラスのゴール差が多いかマイナスのゴール差が少いかによって順位を決める

3・4・4　もし2チームまたはそれ以上のチームのゴール差が同じである場合は、各々のチームが関係試合において得点するゴールの数に従って順位を決定する

3・4・5　もし2チームまたはそれ以上のチームがいぜんとして同点である場合は、各自のチームの間で行われた試合の結果のみを考慮に入れて新順位を決定。この順位決定は得点、ゴール差及び「プラス」ゴールを基礎とする

3・4・6　もし2チームまたはそれ以上のチームの順位決定が依然として不可能である場合はその順位をくじによって決めることにする。このくじはそれぞれのチームの代表者立会いのもとでIHF技術委員会が抽く。

3・4・7　1～16位までを決める試合は延長を行う。

a…第1次延長　5分×2

b…第2次延長　5分×2

c…その後の延長時間は勝者が決定するまで各5分間とする

第1次延長が始まる前の休憩を5分間とし、その後の各延長ごとに休憩時間を5分とする。

各延長の始まる前にサイド及びスローを決めるためにくじを抽く

3・5　大会が始まったのちチームが退場したり、もしくは予選及び準決勝リーグの試合中失格の宣言を受けた場合、トーナメントはこのチームの参加なしで継続され、試合のために代りのチームは選ばない。そして問題のチームが今まで行った試合の結果は無効とされる。

3・5・1　もし予選、準決勝リーグが行われたのち、あるチームがトーナメントから脱退した場合、そのチームの代わりに決勝ラウンドに進むチームは競技運営委員会が決める。

3・8・1　オリンピックハンドボールトーナメントの各試合はIHF技術委員会が1972年の公式レフェリー名簿のなかの有資格者から選定した24名のレフェリーによって管理される。

記録係及び計時員はドイツ・ハンドボール連盟から推薦され組織委員会と合議のもとにIHFによって公式任命された者でなければならない。

3・8・2　オリンピックハンドボールトーナメントの公式ボールはIHF規則が必要とする条件に適ったものでなければならない。その製造はIHF技術委員会が組織委員会のもとに決定する

3・9・1　各チームは少なくとも2組のユニホームを用意、それらのユニホームにいかなる広告をもつけることは許されない

3・9・2　第1組のユニホームの色がそのチームが代表する国の色であることは公式エントリーの際、組織委員会に通告しなければならない。

3・9・3　各競技者はシャツの背中に番号をつけ、ショーツにも番号をつけなければならない

普通の競技者は2～11、13～15、GKは1、12、16にしなければならない。オリンピックハンドボールトーナメントのすべての試合において競技者の番号を変えてはならない。

3・9・4　もし競技管理運営機構、それに関する各委員またはレフェリーがコートに出ている2チームのユニホームがまぎらわしく紛糾の種になるおそれがあるとみなした場合、またはテレビ放送のために不適当であるとみなした場合には、公式プログラムの記入が先であるチームがそのユニホームをもっと対照的な色のものと変えなければならない。

3・10・3　異議申立はその試合終了後1時間以内に関係委員宛に提出しなければならない。同時に200スイスフランをドイツマルクに換算して払込み、異議申立が正当とみなされた場合においてはその供託金を払い戻すことになり、正当とみなされない時はIHFによって没収される。正式異議申立はIHFの公式用語を用いた書面をもって遅くとも試合の翌日9時（中央欧州時間）までにIHF技術委員会に提出されなければならない。

規則に従って試合のとりきめあるいはレフェリーの任命、または判定についての抗議は許されない。異議申立失格処分についての技術委員会の決定は多数決で決めるが、関係国の代表はその討議に出席し決定に参加してはならない。

オリンピック代表気力の初合宿

□……すさまじいばかりの気合いが館内にみなぎっていた。

7月5日から東京・駒沢体育館で始ったオリンピック代表の初合宿。日本ハンドボール界でオリンピック選手という栄光の肩書きをつけた選手が合宿を行うのは初めてのこと。12人の表情は終始緊張していたし、村田弘オリンピック対策部長、竹野奉昭コーチの気迫はそれ以上ともいえた。

□……「11日間で6試合をこなす持久力と精神力の強化」がコーチングスタッフの狙い。午前2時間半、午後3時間の練習の大半はウエイトトレーニング、スタミナづくりにあてられた。炎暑下10キロのロードワークをはじめ、まるで高校生の冬季トレーニングのようなプログラムに、選手たちは「学生時代を思い出す」と歯をくいしばっていた。

□……これまでの強化合宿にはいつも20人近い選手が参加、にぎやかだったがこれからは12人。自覚をうながす無言の効果にはなっていたが、練習時における疲労度は比べものにならない。選手たちをささえているのは気力だけではないか、と思われるシーンがかなりみられた。

「ナショナルプレイヤーがグロッキー寸前になる。これまでにあっただろうか。この努力、きっとミュンヘンで実を結ぶと思う」と荒川清美理事長はたのもしげである。

□……終盤3日間からいよいよチームプレーの練習が始った。

さすがに選びぬかれた代表、すべてに確実で、洗れんされたプレーを見せたが、外国選手を相手に上位入賞を果そうとするにはまだまだ課題が多い。

特にディフェンス面では、6人の組織プレーをはじめて日が浅いせいもあり、もうひとつピリッとしていない。

菊池(早大)、菅野(日体大)ら練習相手になった長身の若手選手にかなりゴールを割られていたし、竹野コーチの狙う「攻撃的ディフェンス」も〝完成〟とはいえない

□……「体の大きい外人選手へ密着するようにして詰め、相手の態勢をくずし、フルスイングさせない」という竹野コーチの策戦を実らすには前後左右へ俊敏に動くフットワークが要る。やはり体力がベースになるのだ。

国際級と折り紙つきのGK陣—本田、下里も北川勇喜コーチにみっちりしぼりあげられていた。

□……攻撃面では中盤をショートパスでつなぎながら左右に大きく開き、中央、サイドを使い分ける速攻に成長のあとがうかがえた。

とりわけ、相手のディフェンスを中央部へひきよせ、サイドをアウトナンバーにして射ちこむプレーは満点に近い。佐々木—新実という新しいコンビが活きている。

問題のシュート力は、各選手ともスピードアップはしているが、確実味ということになると木野、近森、野田、早川らのベテランが狙いどころの巧さでリード。飯田、有永、中井、新実、氷海らが安定してくるとセットプレーの威力が増せる。

□……お家芸のスカイプレー。佐々木の卓抜したジャンプ力をキーにして右サイド—左サイド—中央と空間で三つのプレーをつなげる新戦法が試みられている。

昨秋のスウェーデン戦で関東学生がもののみごとに成功させたがこのプレーをマスターできれば、日本の立体攻撃はいっそう多彩になろう。

気がかりなのは、審判員が「すべて空間処理」と判断してくれるかだ。取材に集った報道関係者も着地とボールを離す〝際どさ〟を心配していた。NHK・TVが1秒200コマで撮したフィルムでは鮮やかに空中で投げ、受け、射っている。レンズの目はOKでも、裁くのは人間の目。どうとらえられるか微妙だ。

□……厳しいなかにも、オリンピックを前にした〝行事〟が合宿を彩った。なかでも遠征用のブレザーコート(黒の上衣とグレーのズボン)開閉会式用のユニホーム(赤の上衣と白のズボン)の仮ぬいは、選手たちの疲れた表情から笑顔がのぞけたし、この晴れがましい栄光と幸運が新たなファイトを燃やしつけたようにみえた。

オリンピックをめざして選手強化がスタートしたのは6年前、この12人はすでに単独チームのように気心が知れている。夜のミーティングも遠慮ない〝戦術論〟があり〝対話〟があった。いいムードだ。

□……練習試合には安藤純光、佐野和夫氏ら国際審判員がかけつけるし、徳永陸繁副会長をはじめ連日協会役員がコートサイドに姿を現し激励していた。選手、役員、まさに一丸。それはミュンヘンオリンピックを自分達のものにしようとする情熱にほかならない。選手たちの心身はさらに一まわり大きくなった感じである。(S)

男女110校が盛夏に熱戦

～第23回全日本高校選手権展望～

嶋田新太郎
（日本協会常務理事
全国高体連副部長）

第23回全日本高校選手権（インターハイスクール）は8月2日から7日までの6日間山形県東根市の東根工高特設グランドに男子55校（47都道府県）、女子55校（46都道府県）が参加して炎天下に熱戦を展開する。

予選に参加した校数は一、二三九校に及び、本大会へ駒を進めた各校の実力は伯仲、予断を許さぬ激戦模様だが、各地や編集部からの情報をもとに有力校を探ってみよう。

・ミュンヘンオリンピック開幕を3週間後に控えての大会、35年の宿願を果してわが代表も出場という快挙であり、大会のムードは次代を目指す若い力の激突でいやがうえにも盛りあがることだろう。

最近の傾向として新鋭校の進出が目立っているが、今年も初出場校は男子12、女子13校を数え、新鮮な印象を強めている。

一方、古参、名門と呼ばれる各校の健闘も相変らずみごとで、男子では清水商（静岡）、新居浜工（愛媛）が20回目の出場を果たしたほか、桜台（愛知）、盛岡一（岩手）が19回目。

女子では涌谷（宮城）、明善（福岡）が20回と記録を伸ばし、山梨（山梨）の18回がこれにつづいている。

連続出場は女子の秋田和洋女（秋田）が12年連続でトップ、小諸商（長野）も11年連続だ。

予選で最大の波乱は山口の女子で15年連続出場を狙っていた徳山が敗退したことだろう。また過去20回出場の静岡城北も敗れ、男子では8連勝の松江工（島根）がストップ。

男女出場は三本松（香川）、麻生（茨城）、添上（奈良）、国学院栃木（栃木）、加納（岐阜）の5校である。

注目の湯沢ら東北勢

◆男子　Aゾーンでは2連勝を狙う湯沢（秋田）を中心に北海道1位の函館有斗、東北1位の仙台育英（宮城）の両強豪、地元の期待を集める東根工（山形）、古豪・天城（岡山）などが並びさらにダークホース視されている笠間（茨城）、都島工（大阪）がからんで大混戦になりそうだ。

注目の湯沢は大型FPが卒業、スケールは昨年より小さくなったようで東北大会（6月・青森）でも2回戦で敗退している。2連覇への道はけわしい感じだが、チャンピオンとしての自信がどこまで活かされるかも一つのカギだろう

初出場乍ら東北大会で抜群の攻撃力を見せた仙台育英と関東2位・笠間は1回戦屈指の好カード。

小倉西ら〝候補〟並ぶ

Bゾーンは北信越1位小杉（富山）、九州1位小倉西（福岡）の2強が並ぶ。

このほか10回目の優勝をかける名門・桜台（愛知）、洗れんされたプレーを誇る初顔の早大学院（東京）、まとまりのある伏見工（京都）、三本木（香川）、呉工（広島）など好チームがひしめき、このゾーンから優勝校が出るのではないか、という声も大きい。

特に小倉西の破壊的な攻撃力は注目に価するものがあり、桜台戦を乗り切れば一気に王座へかけのぼることもたしかに可能性があろう。

かみ合う名門、新進校

Cゾーンは名門校と新進校がかみあっている。

優勝経験のある新居浜工（愛媛）下関中央工（山口）はそれぞれ自信のある布陣だし、常連校ともいえる添上（奈良）、麻生（茨城）、塩山商（山梨）もスキのない攻守だ。

このほか着実に力を伸ばしている大石田（山形）は東北2位と好調で地元の声援に応えたいところ。

初出場組では激戦地を勝ち抜いて来た名南工（愛知）、闘志にあふれた隼人工（鹿児島）が注目され、15年ぶりの登場という済々黌（熊本）や佐野工（大阪）、武庫工（兵庫）ら近畿勢の力も見逃せない。

清水商、中大付ら有力

Dゾーンでは東海1位の清水商（静岡）、関東1位の中大付（東京）が主軸となって進みそう。

このほか粘りで定評のある盛岡一（岩手）、県和歌山商（和歌山）、昨年準優勝の佐世保北（長崎）らも侮れぬ力をもっており、Bゾーンに次ぐ実力校が揃っているといってよい。

波乱をおこすとすれば国学院栃木（栃木）、聖光学院工（福島）、岐山（岐阜）あたりで、いずれにせよ3回戦がヤマ場となる。

◇

息を抜けぬ白熱戦のなかから準々決勝の顔合せを予想するのは至難に近いが、あえて拾い出せば湯沢×仙台育英・笠間・都島工、小杉・伏見工×小倉西・桜台、大石田・添上×新居浜工・武庫工・下関中央工、清水商×中大付・佐世保北となるだろう。

山陽女めぐる争い

◆女子　Aゾーンでは2連勝を狙う山陽女（広島）の試合ぶりが焦点になる。優勝メンバーの大半を送り出したが守備力は昨年以上と自信を示す。追うのは北海道1位の函館女商、関東2位の山梨（山梨）神埼農（佐賀）、小諸商（長野）、深谷女（埼玉）、水海道二（茨城）らで関東勢の手固いチーム力が目立つ。このほか初出場だが神戸女商（兵庫）も好チームと評判である。

市邨学園（愛知）はこれまで名古屋女商を名乗っていた学校、通算9回目の出場であり侮れない。

実力高い初出場組

Bゾーンは名門、新鋭が入り乱れた。九州2位で国体(今秋)のため強化の実をあげている財部（鹿児島)を先頭に、最上位カムバックをめざす新居浜市商(愛媛)、粉河(和歌山)、名門・大谷(大阪)などが並び、さらに徳山を県予選で押しのけた高水(山口)、静岡城北を降した清水西(静岡)をはじめ五商(東京)、下仁田(群馬)、上溝（神奈川)、新潟女(新潟)、守山女(滋賀）ら意気あがる初出場組が目白おし、各カードとも大接戦必至である。

ダークホースが並ぶ

Cゾーンは東海1位の高蔵（愛知）東北2位の涌谷(宮城)、北信越2位の有磯(富山)が中心。有磯は前年2年生を主力に準々決勝まで進んでいる好チームだ。

このほか春日丘(大阪)、明徳商(京都)の近畿勢、大分東(大分)、明善(福岡)、小禄(沖縄)の九州勢が強そう。広島一女商(広島)、昭和学院(千葉)、津女(三重)もうるさい存在で、波乱ぶくみである。

呼声高い秋田和洋女

優勝校が出そうだ——というのがDゾーン。

東北1位の秋田和洋女(秋田)、北信越1位の小松市女(石川)、関東1位の国学院栃木(栃木)と3強が散らばり、さらに甲子園学院(兵庫)、熊本市立(熊本)、竹田女(山形)、加納(岐阜)、麻生(茨城)とダークホースがからんでいる。

なかでも昨年準優勝の秋田和洋女は今シーズンも絶好調のようで優勝短距離という声がもっぱらだ

◇

男子よりも有力校の選びだしが容易な感じをうけるが炎暑下6日間連続の日程とあれば、実力以外に運、コンディショニングも左右してくる。

しかも昭和38年(第14回)以降、優勝校は塗り替えつづけられており地域差の解消が著しい。

準々決勝の4カードは波乱なく進めば山陽女×山梨、財部×新居浜市商、有磯、大分東・涌谷×高蔵、国学院栃木・小松市女×秋田和洋女か。

第23回全日本高校選手権組合せ

○……男　子……○

湯沢(秋田)
高島(滋賀)
日南工(宮崎)
東根工(山形)
柏崎工(新潟)
高知西(高知)
天城(岡山)
川口工(埼玉)
函館有斗(北海道)
都島工(大阪)
仙台育英(宮城)
笠間(茨城)
四日市工(三重)

佐賀農(佐賀)
伏見工(京都)
コザ(沖縄)
三本松(香川)
小杉(富山)
横浜一商(神奈川)
呉工(広島)
早大学院(東京)
北佐久農(長野)
鰺ヶ沢(青森)
加納(岐阜)
清水(千葉)
小倉西(福岡)
桜台(愛知)

名南工(愛知)
添上(奈良)
麻生(茨城)
倉吉工(鳥取)
済々黌(熊本)
羽水(福井)
大石田(山形)
新居浜工(新潟)
隼人工(鹿児島)
武庫工(兵庫)
秋田南(秋田)
下関中央工(山口)
佐野工(大阪)
塩山商(山梨)

盛岡一(岩手)
県和歌山商(和歌山)
立野(神奈川)
岐山(岐阜)
浜田水産(島根)
前橋工(群馬)
清水商(静岡)
鶴崎工(大分)
中大付(東京)
国学院栃木(栃木)
石川県工(石川)
聖光学院工(福島)
徳島東工(徳島)
佐世保北(長崎)

※優勝校は日韓高校交歓競技会（ソウル）の代表となる。

○……女　子……○

山陽女(広島)
添上(奈良)
神埼農(佐賀)
水海道二(茨城)
市邨学園(愛知)
小諸商(長野)
山梨(山梨)
須賀川(福島)
函館女商(北海道)
城山(高知)
深谷女(埼玉)
神戸女商(兵庫)
福井商(福井)

大谷(大阪)
財部(鹿児島)
益田(岐阜)
第五商業(東京)
新潟女(新潟)
米沢女(山形)
守山女(滋賀)
粉河(和歌山)
新居浜市商(愛媛)
佐世保商(長崎)
下仁田(群馬)
高水(山口)
上溝(神奈川)
清水西(静岡)

大分東(大分)
青森西(青森)
春日丘(大阪)
津女(三重)
涌谷(宮城)
昭和学院(千葉)
有磯(富山)
池田(徳島)
小禄(沖縄)
明徳商(京都)
桜水商(東京)
高蔵(愛知)
明善(福岡)
広島一女商(広島)

国学院栃木(栃木)
甲子園学院(兵庫)
熊本市立(熊本)
真備(岡山)
大東大原(岩手)
小松市女(石川)
日野(神奈川)
竹田女(山形)
都城泉丘(宮崎)
加納(岐阜)
松江農林(島根)
三本松(香川)
麻生(茨城)
秋田和洋女(秋田)

大洋デパート5連勝飾る

全日本女子実業団〈速報〉

第13回全日本実業団選手権は7月12日から16日まで室蘭市体育館に国内最上位8チームと韓国から白花醸造（ソウル）が特別参加して行われた。

常勝・大洋デパート（熊本）と東京重機（東京）が好調に勝ち星を重ね、前年同よう両者が最終戦で対戦、大洋は前半巧く優位に立ち粘る東京重機を振り切って5連勝6度目の優勝を飾った。これで大洋デパートは43年8月第23回全日本総合（長崎）以来、15の全国大会に連続優勝という快記録をマークした。

白花醸造の対日本チームの通算成績は18戦9勝8敗1分

▼予選リーA組

大洋デパート（熊本） 13（6－6、7－1）7 日本ビクター（茨城）

（この記録は決勝リーグに適用）

日本ビクター 11（7－4、4－4）8 ブラザー工業（愛知）

大洋デパート 10（7－1、3－7）8 ブラザー工業

東京重機（東京） 18（10－4、8－5）9 東北ムネカタ（福島）

▽同B組

田村紡（三重） 11（7－5、4－5）10 東北ムネカタ

東京重機 17（7－5、10－5）10 田村紡

（この記録は決勝リーグに適用）

▽同C組

白花醸造（韓国） 28（16－1、12－3）4 扇屋（千葉）

大崎電気（埼玉） 23（9－0、14－2）2 扇屋

白花醸造 11（6－3、5－7）10 大崎電気

（この記録は決勝リーグに適用）

白花醸造、1勝に留る

▼決勝リーグ

日本ビクター 15（7－6、8－5）11 白花醸造

東京重機 15（6－0、9－4）4 大崎電気

大洋デパート 11（5－3、6－1）4 田村紡

田村紡 16（9－3、7－3）6 大崎電気

東京重機 13（5－4、8－5）9 日本ビクター

大洋デパート 21（13－4、8－6）10 白花醸造

田村紡 9（3－4、6－3）7 日本ビクター

大洋デパート 16（9－1、7－3）4 大崎電気

東京重機 19（7－5、12－4）9 白花醸造

大崎電気 11（5－2、6－7）9 日本ビクター

田村紡 12（5－2、7－6）8 白花醸造

大洋デパート 13（8－5、5－5）10 東京重機

【順位】①大洋デパート5戦全勝②東京重機4勝1敗③田村紡3勝2敗④日本ビクター1勝4敗（得失点差マイナス10）⑤大崎電気1勝4敗（マイナス32）※白花醸造～特別参加～1勝4敗（マイナス28）

▼7～9位決定リーグ

ブラザー工業 15（11－2、4－3）5 東北ムネカタ

東北ムネカタ 15（9－2、6－2）4 扇屋

ブラザー工業 18（8－1、10－2）3 扇屋

【順位】⑦ブラザー工業⑧東北ムネカタ⑨扇屋

詳報は次号

なお、この大会のベストセブンは次のとおり。

GK小原（大洋）FP垂水、島田（以上大洋）牧野（東京重機）蓮見姉（ビクター）辻（田村紡）寺尾（大崎電気）

○……「白花にだけは負けたくないわ」――各チーム主力選手の気焔はもう2ケ月近く燃えつづけていたといってよい。

5月に若手中心の全日本実業団選抜が訪韓、いかに韓国ナンバー・ワンとはいえ単独チームの白花醸造に10－15、7－11と連敗した悔しさは遠征選手が各チームへ戻ったあと、大げさにいえば女子実業団球界全体の悔しさに拡がった。

○……日本勢の闘志を知ってか知らずか白花醸造は第1日あっさり2勝、前評判どおりの強さを見せたのだが、決勝リーグ第1戦（第2日）で日本ビクター（茨城）が全日本チャンピオンの面目を示して白花の寄りを食い止め、それ以後は大洋デパート（熊本）、東京重機（東京）、田村紡（三重）らも一方的といってよい経過で白花を退けた。

意地みせた日本勢

○……昨冬の世界選手権における低迷、韓国遠征での2敗とあまりよいニュースのなかった女子界だけに関係者も今回の成績で一息ついた感じ。

しかし、白花醸造もこのまま引きさがるとは思えず、日韓女子の対決は男子以上の烈しい火花をちらしつづけそうである。

NHKテレビスポーツ教室

今年のNHKテレビスポーツ教室（教育テレビ）「ハンドボール」は8月27日と9月3日の2回、NHK大阪の制作で放送される。

指導は村田弘オリンピック対策部長、実技は大阪体育大学など。

近づく夏の2大会

第15回 全日本教職員選手権

◇8月16―19日◇千葉県佐原高校球技場

全国から36チームが参加、トーナメントで優勝を争う。

教職員チームの場合新しい選手の補強が自由にいかないため、ほとんどメンバーに変動がみられず、平均年令はかなり高い。したがってパワー、スピードよりもテクニック、それも個人技の優劣がチーム力をかなり左右する。チーム環境による練習量にも差が大きい。〝国体前後〟のチームが毎年上位へ進出するのも若手が多いことと、背景の意気ごみが違うからである

2連勝を狙うイーグルスは樫塚の巧技を軸に河原崎、市田、安達、高橋、池本、GK広川らソツのない攻守を誇る。スワロー兵庫はGK上野清、FP井上を要に畑、木野、黒田、中村、北山らでイーグルスとそん色ない布陣だ。埼玉は北井、金子、高戸河住、GK高橋邦ら主力の顔ぶれは変わっていない。

地元・千葉はベスト4入りが期待できる。新戦力・氷海がオリンピックのため抜けるのは痛いが笠原をリーダーに学窓を出たての松、佐藤、岩下、GK吉田らを配してスピードは参加チーム随一だ。

鹿児島も国体を2ケ月後に控え着実に伸びている。平山、川添、田之上、GK海江田と侮れずスワロー戦は白熱しよう。

ダークホースは巧者を揃えた東京スターズと和歌山。このほか沖縄、愛知、岡山、福岡、岩手、福井らが上位を狙う（S）

大阪イーグルス
沖縄教員
長野教員
三重教員団
岩手教員
東京スターズ
滋賀教員
愛知教員
茨城教員
ストーク兵庫
広島教職員
北海道教員
秋田高専職員
岐阜教員ク
熊本職員団
群馬教員
岡山教員
埼玉教員ク

東京教員
山口教員団
大阪教員ク
Oldイーグルス
栃木教員
千葉教員
新潟教員
神奈川教員ク
愛教ク
静岡教員団
愛媛教員
福岡教員
山梨教員
和歌山教員
福井教員
鹿児島教員
秋田教員
スワロー兵庫

第1回 全国中学生大会

◇8月18、19日◇名古屋市郊外愛知県青少年公園

斯界待望の大会であるみかたによってはオリンピック初出場以上のニュースといえる。

参加チームは男女とも全国9ブロックと地元・愛知代表の計10チーム。

関係者は初年度だけに全代表が出揃うか心配していたが、各ブロックとも意気さかんで、日本協会には「なぜ都道府県別代表制を採らなかったのか」という投書も舞いこんでいるほどだ

これまでにまったく全国的な交流がなかったため中学生の実力がどの程度なのか判断する材料がない。その面でも興味がもたれる。

「予想以上のレベルを示してくれれば球界の今後、とりわけ高校界の水準引きあげにすぐ寄与するだろう」とはある高体連関係者の弁だが、体位の向上と相まって好内容を期待してもよさそうである。

日本協会や主管の愛知協会は勝負や技術にこだわらず中学生の夏休みのスポーツ活動として大会の場がイコール交歓の場となるようムード造りにも気を配っている。幸い会場の愛知県青少年公園の総合スポーツセンターは、ヨーロッパに比肩するといわれる緑地帯に設けられており申し分のない環境である。健康的な発らつとした大会になるだろう。

わずかな期間に机上案から具体化へ、そしていくつもの難問をのりこえて開催へこぎつけた関係役員の努力と情熱にこの場から感謝しておきたい。（A）

【組み合せ＝内定】▼男子1回戦①四国代表×東北代表、②北信越代表×九州代表　▽同2回戦A東海代表×①の勝者　B近畿代表×北海道代表、C愛知代表×②の勝者、D関東代表×中国代表、▽同準決勝、A×B、C×D、▽同決勝（19日13時25分）

▼女子1回戦①北海道×四国、②東北×九州　▽同2回戦　A愛知×①の勝者、B中国×北信越、C近畿×②の勝者、D関東×東海　▽同準決勝、A×B、C×D　▽同決勝（19日12時45分）

ブロック高校選手権

函館勢、男女で2連勝

第23回 北海道高校

◇6月24、25日◇江差高体育館◇参加男子8校、女子6校

地区予選を勝ち抜いたベストチーム同士にふさわしく接戦がつづいた。男子はいぜん函館勢が劣えぬ強さを誇り、連勝をめざす函館有斗と10回目の優勝を狙う函館工の決勝になり有斗が僅かに押し勝った。

女子は予選Aで函館女商がライバル室蘭商を制し、B組では新進・室蘭東が2勝。決勝は函館女商×室蘭東の初顔合せから函館女商が延長後のチャンスを確実に活かして2連勝した。

なお、男女とも全日本高校道予選を兼ね優勝校が代表権を獲得。

▽男子予選リーグA組
函館有斗 12－11 室蘭東
釧路工 18－8 紋別北
函館有斗 5（分）5 紋別北
釧路工 18－8 室蘭東
紋別北 14－11 室蘭東
函館有斗 11－4 路釧工
▽同B組
函館工 20－7 札幌南
釧路湖陵 10－7 室蘭栄
函館工 16－8 室蘭栄
釧路湖陵 21－9 札幌南
室蘭栄 11－10 札幌南
函館工 10－5 釧路湖陵
▽同決勝
函館有斗 11（6－4、5－3）7 函館工
▽女子予選リーグA組
函館女商 15－4 紋別北
室蘭商 10－0 紋別北
函館女商 10－0 室蘭商
▽同B組
室蘭東 4－2 函館商
函館商 12－2 江差
室蘭東 没収試合 江差
▽同決勝
函館女商 7（2－2、3－3……1－0、1－0）5 室蘭東

第25回 東北高校

◇6月23、24、25日◇青森西高球技場◇参加男子12校、女子12校

男子では昨年全国優勝の湯沢（秋田）が準々決勝で盛岡商（岩手）に逆転負けする波乱があった。

優勝争いは、前評判の高かった仙台育英（宮城）が順調に進出、手固く勝ちあがって来た大石田（山形）との決勝戦も快勝、初優勝を飾った。4試合で64点をあげた攻撃力がすばらしかった。

女子は準決勝で進境の山形勢を降した秋田和洋女と涌谷（宮城）が予想どおり対決、和洋が前半から優位に立って3連勝（通算7度目）。

▽男子1回戦
盛岡商（岩手）12（3－3、9－2）5 郡山西工（福島）
柏木農（青森）10（5－3、5－3）6 仙台一（宮城）
聖光学院（福島）14（5－5、9－5）10 秋田南（秋田）
仙台育英（宮城）18（6－5、12－4）9 東根工（山形）
▽同準々決勝
盛岡商 10（5－2、5－7）9 湯沢（秋田）
大石田（山形）13（6－2、7－5）7 柏木農
聖光学院 16（8－5、8－4）9 鰺ヶ沢（青森）
仙台育英 17（7－4、10－5）9 盛岡一（岩手）
▽同準決勝
大石田 8（4－4、4－1）5 盛岡商
仙台育英 16（10－3、6－6）9 聖光学院
▽同決勝
仙台育英 13（7－3、6－1）4 大石田
▽女子1回戦
須賀川長沼（福島）9（6－1、3－3）4 古川女（宮城）
米沢女（山形）7（2－1、5－3）4 花巻農（岩手）
石川（福島）13（6－0、7－2）2 三本木（青森）
六郷（秋田）9（3－2、6－2）4 大東大原（岩手）
▽同準々決勝
秋田和洋（秋田）11（4－1、7－2）3 須賀川長沼
米沢女 4（3－1、1－1）2 青森西（青森）
竹田女（山形）6（3－2、3－2）4 石川
涌谷（宮城）7（1－3、6－3）6 六郷
▽同準決勝
秋田和洋 16（10－1、6－1）2 米沢女
涌谷 12（6－3、6－4）7 竹田女
▽同決勝
秋田和洋 9（2－0、7－3）3 涌谷

国学院栃木、女子で連勝

第18回 関東高校

◇6月17、18、19日◇甲府市・山梨県営体育館◇参加男子24、女子24

男子の決勝中大付×笠間（茨城）は笠間が好調な滑り出しで4－0と先制したが、中大付はよく盛返し後半早々に逆転、そのまま一気に勝負を決めた。3連勝4度目

女子は地元・山梨が15年ぶりに決勝へ進出、国学院栃木と一進一退の好ゲームを展開、いちどはリードを奪ったが、国学院栃木は後半15分逆転し2連勝を遂げた。

▽男子1回戦
国立（東）8－6 前橋商（群）
馬頭（栃）17－12 浦和市立（埼）
笠間（茨）22－9 甲府一（山）
草加（埼）11－9 前橋工（群）
足利工（栃）10－10 八千代（千）
　抽せんで足利工の勝ち
早大学院（東）21－13 多摩（神）
石岡一（茨）16－13 日川（山）
佐原（千）12－9 川和（神）
▽同2回戦
国立 9－4 川口工（埼）
国学院栃木 18－7 馬頭
笠間 15－14 市川（千）
塩山商（山）15－5 草加
富岡（群）17－12 足利工
横浜一商（神）17－15 早大学院
中大附属（東）20－8 石岡一
麻生（茨）16－3 佐原
▽同準々決勝
笠間 15（6－7、9－4）11 塩山商
富岡 11（8－5、1－4……0－1、2－0）10 横浜一商
中大附属 16（6－5、10－7）12 麻生
国立 6（2－2、4－0）2 国学院栃木
▽同準決勝
中大附属 11（6－5、5－3）8 富岡
笠間 13（5－4、8－2）6 国立
▽同決勝
中大附属 11（5－6、6－2）8 笠間
▽女子1回戦
下仁田（群）11－2 吉田商（山）
水海道二（茨）9－1 京女大附（神）
栃木女（栃）13－1 横浜東（神）

八郷(茨)9-4五商(東)
桐生女(群)6-3八千代(千)
秩父(埼)8-5府中(東)
塩山商(山)11-4行田女(埼)
佐原女(千)7-5小山城南(栃)

▽同2回戦
麻生(茨)10-5下仁田
山梨(山)14-5水海道二
栃木女 4-3昭和学院(千)
八郷 10-5前橋市女(群)
国学院栃木 15-0桐生女
上溝(神)9-4秩父
深谷女(埼)8-7塩山商
桜水商(東)5-5佐原女
抽せんで桜水商の勝ち

▽同準々決勝
山梨 7(2-3, 5-3)6 麻生
八郷 6(1-3, 5-1)4 栃木女
国学院栃木 14(5-0, 9-4)4 上溝
深谷女 5(4-2, 1-1)3 桜水商

▽同準決勝
山梨 8(4-2, 4-1)3 八郷
国学院栃木 6(3-1, 3-1)2 深谷女

▽同決勝
国学院栃木 7(3-3, 4-3)6 山梨

小杉(男)、小松女連続の栄冠

第8回 北信越高校

◇6月17、18日◇柏崎市◇参加男子10校、女子10校

男子は小杉(富山)が安定した攻守で勝ち進み決勝でも北佐久農(長野)に制勝、2年連続4度目の栄冠を握った。

女子は有力とみられた小松女(石川)、有磯(富山)、小諸商(長野)が激しくせりあったが、小松女が他の2強を1点差で降し2年連続3度目の優勝を飾った。

▽男子1回戦
上田(長野)13(3-4, 10-3)7 柏崎工(新潟)
金沢工大付(石川)15(7-4, 8-8)12 柏崎(新混)

▽同準々決勝
小杉(富山)21(9-4, 12-5)9 高志(福井)
北佐久農(長野)11(4-1, 7-6)7 日大高岡(富山)
上田 20(9-7, 11-5)12 県立工(石川)
羽水(福井)21(13-8, 8-8)16 金沢工大付

▽同準決勝
小杉 10(4-4, 6-2)6 上田
北佐久農 10(3-3, 7-6)9 羽水

▽同決勝
小杉 8(5-3, 3-2)5 北佐久農

▽女子1回戦(2試合)
巻(新潟)8(4-2, 4-4)6 北陸大谷(石川)
北佐久農(長野)7(3-2, 4-1)3 新混女(新潟)

▽同準々決勝
小諸商(長野)12(5-0, 7-0)0 高志(福井)
小松女(石川)18(7-2, 11-1)3 小杉(富山)
有磯(富山)16(8-3, 8-4)7 巻
北佐久農 9(4-2, 5-3)5 福井商(福井)

▽同準決勝
有磯 11(5-6, 6-4)10 小諸商
小松女 14(6-1, 8-3)4 北佐久農

▽同決勝
小松女 9(7-5, 2-3)8 有磯

女子は高蔵が初優勝

第19回 東海高校

◇6月24、25日◇三重・四日市高球技場◇参加男子8校、女子8校

伝統校が入り乱れての激戦は見応えがあった。男子は準決勝で静岡勢が愛知勢に連勝、静岡予選決勝の再現となり清水商が発らっとした攻撃で大勝し3年ぶり3度目の優勝を決めた。

女子はインターハイ出場を逃がした静岡城北が3連勝を目ざして元気に決勝へ残ったが、初優勝を狙う高蔵(愛知)が後半主導権を握り決勝した。

▽男子準々決勝(=1回戦)
桜台(愛知)18(4-2, 14-3)5 津工(三重)
清水商(静岡)15(4-4, 11-3)7 岐山(岐阜)
静岡農(静岡)10(6-1, 4-5)6 四日市工(三重)
中京(愛知)12(7-3, 5-7)10 加納(岐阜)

▽同準決勝
清水商 17(8-2, 9-7)9 桜台
静岡農 9(1-3, 8-5)8 中京

▽同3位決定戦
桜台 15(7-7, 8-7)14 中京

▽同決勝
清水商 20(13-4, 7-3)7 静岡農

▽女子準々決勝(=1回戦)
高蔵(愛知)13(4-2, 9-1)3 沼津女(静岡)
津女(三重)8(5-2, 3-1)3 益田(岐阜)
静岡城北(静岡)7(4-2, 3-2)4 暁(三重)
加納(岐阜)8(5-3, 3-2)5 市邨学園(愛知)

▽同準決勝
高蔵 12(5-2, 7-2)4 津女
静岡城北 7(3-1, 4-4)5 加納

▽同3位決定戦
加納 10(4-2, 6-1)3 津女

▽同決勝
高蔵 7(3-2, 4-1)3 静岡城北

小倉西が男子で初優勝

第22回 九州高校

◇6月24、25日◇佐賀県総合運動場球技場

▽男子決勝
小倉西(福岡)24(13-3, 11-9)12 佐世保北(長崎)
小倉西高は初優勝

▽女子決勝
熊本女商(熊本)11(5-3, 6-4)7 財部(鹿児島)

ハンドボールテキスト完成

かねてより、普及部を中心に検討を重ねてきたハンドボールテキストがこのほど完成した。全一五章よりなり、特にいかに指導をしていくかということに重点がおかれている。豊富な図が入り、理解を助けている。各地の指導者には必携の書となろう。

本文B5版58頁、挿図140葉、価格は300円(送料とも)申し込みは日本ハンドボール協会まで

嶋田氏を韓国派遣　日本協会は7月22日の月例常務理事会で8月20日からソウルで行われる日韓高校交歓スポーツ競技会に嶋田新太郎常務理事を派遣することに決めた。

全国スポーツ少年大会で実施

第10回全国スポーツ少年大会は7月25日から30日まで東京に全国のスポーツ少年団員約千五百名を集めて行われ、例年同よう第2日から3日間のスポーツ活動(12種目)でハンドボールも実施され、日本協会普及部が中心となって指導にあたった。

第23回全日本高校
各県予選記録（下）

☆太字は代表校
☆報告分のみ

推せん出場校（前年優勝）
▽男子　湯　沢（秋田）＝5年連続9度目の出場
▽女子　山陽女（広島）＝3年連続11度目の出場

東北

◇青森県

▽男子1回戦
青森東　15－13　五所工
鰺ヶ沢　21－11　五　所
柏木農　13－10　弘前南
七　戸　不戦勝　青　森
▽同準々決勝
十和田工　16－11　青森東
鰺ヶ沢　12－3　青森商
柏木農　19－7　光星学院
三本木　17－10　七　戸
▽同準決勝
鰺ヶ沢　20－10　十和田工
柏木農　11－6　三本木
▽同決勝
鰺ヶ沢　21－14　柏木農
鰺ヶ沢高は6年連続6度目の代表
▽女子1回戦（2試合）
柏木農　4－3　青　森
七　戸　14－8　大　湊
▽同準決勝
青森西　18－3　柏木農
三本木　11－3　七　戸
▽同決勝
青森西　12－3　三本木
青森西高は3年連続3度目の代表

◇秋田県

▽男子リーグ戦
秋田南　35－3　横　手
大　曲　24－3　横　手
秋田南　12－6　羽　後
秋田南　18－11　大曲農
大曲農　28－6　横　手
大　曲　12（分）12　秋田南
大曲農　15－13　羽　後
大　曲　13－12　羽　後
羽　後　23－7　横　手
大曲農　26－15　大　曲
【順位】①秋田南②大曲農③大曲④羽後⑤横手
秋田高校選手権を兼ねているため1位の秋田南と推薦出場の湯沢高の内で優勝決定戦が行なわれた。
▽優勝決定戦
湯　沢　18－3　秋田南
湯沢高は推薦出場、秋田南は初出場
▽女子リーグ戦
秋田和洋　31－2　大　曲
六　郷　14－5　大曲農
六　郷　21－3　大　曲
秋田和洋　17－1　大曲農
大曲農　15－5　大　曲
秋田和洋　8－5　六　郷
【順位】①秋田和洋②六郷③大曲農④大曲＝秋田和洋は12年連続14回目の代表

関東

◇神奈川県

▽男子1回戦
平　沼　29－6　市横須賀工
向の岡工　13－10　逗　子
関東学院　13－12　磯子工
三　浦　不戦勝　大　船
Y　校　19－14　大　和
▽同2回戦
一　商　21－11　平　沼
慶　応　16－8　法政二
市川崎工　17－6　新　城
南　17－8　市川崎
県商工　13－12　桜ヶ丘
生　田　17－9　松　田
立　野　23－3　横浜商工
川　和　23－14　向の岡工
関東学院　11－10　桐　蔭
相模台工　12（延）11　日　野
東　17－8　法政工
相模原　14－9　北　陵
希望ケ丘　16－5　三　浦
翠　嵐　13－12　神奈川工
鎌倉学園　32－6　茅ケ崎
多　摩　11（延）10　Y　校
▽同3回戦
一　商　11－8　慶　応
市川崎工　20－8　南
生　田　没収試合　県商工
立　野　13－7　川　和
相模台工　18－13　関東学院
相模原　11－9　東
希望ケ丘　18（延）16　翠　嵐
鎌倉学園　13－7　多　摩
▽同決勝リーグ進出校決定戦
一　商　28－14　市川崎工
立　野　21－7　生　田
相模台工　16－10　相模原
希望ケ丘　13－11　鎌倉学園
▽同決勝リーグ
一　商　22－15　相模台工
立　野　22－3　希望ケ丘
一　商　14－2　希望ケ丘
立　野　11－4　相模台工
希望ケ丘　16（分）16　相模台工
一　商　15－10　立　野
【順位】①一商②立野③相模台工・希望ケ丘
横浜一商は2年ぶり2度目、立野高は初出場
▽女子1回戦
県商工　5－1　翠　嵐
市川崎　11－3　生　田
南　22－9　三　浦
立　野　12－1　横浜学園
大　津　9－3　平　沼
▽同2回戦
上　溝　17－1　県商工
北鎌倉　15－2　多　摩
桜ヶ丘　10－7　江　南
東　6－1　市川崎
京浜横浜　11－5　南
日　野　13－7　高　浜
立　野　7－1　二俣川
明　倫　15－4　大　津
▽同決勝リーグ進出校決定戦
上　溝　21－4　北鎌倉
東　5－3　桜ヶ丘
日　野　12－2　京浜横浜
明　倫　5－0　立　野
▽同決勝リーグ
上　溝　7－6　日　野
明　倫　6－5　東
上　溝　11－3　明　倫
日　野　8－3　東
日　野　8－3　明　倫
上　溝　7－2　東
【順位】①上溝②日野③明倫④東
上溝高、日野高ともに初出場

◇埼玉県

▽男子1回戦
川口工　24－8　秩　父
浦和南　15－14　聖　望
朝　霞　16－6　大宮北
浦和工　11－9　秩父農工
浦和市立　11－7　坂　戸
春日部　27－12　浦和西
寄　居　9－7　菖　蒲
草　加　12（延）11　大　宮
▽同準々決勝

川口工 15－13 浦和南
朝霞 22－11 浦和工
浦和市立 19－6 春日部
草加 21－4 寄居

▽同準決勝
川口工 12－7 朝霞
草加 9－8 浦和市立

▽同決勝
川口工 10－5 草加
川口工は2年連続2度目の代表

▽女子1回戦（3試合）
川口女 8－2 浦和西
朝霞 11－1 浦和南
浦和市立 10－4 嵐山女

▽同準々決勝
深谷女 14－2 川口女
聖望 没収試合 熊谷商
行田女 12－4 朝霞
浦和市立 8－4 秩父

▽同準決勝
深谷女 19－0 聖望
浦和市立 9－7 行田女

▽同決勝
深谷女 13－3 浦和市立
深谷女高は7年連続8度目の代表

◇群馬県

▽男子準々決勝（＝1回戦）
富岡 18－7 前橋商
太田工 12－0 上武大一
前橋工 32－8 甘楽農
桐生工 16－2 桐生

▽同準決勝
富岡 25－3 太田工
前橋工 27－2 桐生工

▽同決勝
前橋工 8－6 富岡
前橋工は2年連続2度目の代表

▽女子1回戦（3試合）
前橋市女 8－4 前橋東商
桐生女 14－1 群女大附
高崎女 12－5 高崎市女

▽同準決勝
前橋市女 11－4 桐生女
下仁田 14－7 高崎女

▽同決勝
下仁田 8－4 前橋市女
下仁田高は初出場

◇山梨県

▽男子1回戦
甲府工 23－10 東洋
園芸 13－10 甲府商
峡北 14－12 吉田
大月 12－8 韮崎工

▽同2回戦
機山 9－8 甲府一
塩山商 25－4 峡北
大月 18－7 南
長坂 9－6 都留
韮崎 11－5 一商
園芸 10－9 明誠
谷村 16－4 農林
日川 14－12 甲府工

▽同準々決勝
日川 21－8 長坂
大月 17－8 谷村
塩山商 19－8 韮崎
機山 16－12 園芸

▽同準決勝
塩山商 22－9 機山
日川 20－9 大月

▽同決勝
塩山商 15－11 日川
塩山商は6年連続14度目の代表

▽女子1回戦（2試合）
甲府二 14－3 一商
長坂 6－5 甲府商

▽同準々決勝
園芸 7－1 峡北
山梨 16－0 長坂
吉田商 不戦勝 湯田
塩山商 15－4 甲府二

▽同準決勝
山梨 21－1 園芸
塩山商 10－5 吉田商

▽同決勝
山梨 11（延）9 塩山商
山梨高は5年連続18度目の代表

◇東京都

▽男子準々決勝
中大附 25－7 駒大高
早稲田学 22－6 羽田工
小岩 11－9 日体荏原
江戸川 14－8 三商

▽同決勝リーグ
早稲田学 14－13 中大附
早稲田学 18－8 小岩
早稲田学 13－12 江戸川
中大附 10－8 小岩
中大附 14－11 江戸川
江戸川 11－9 小岩
【順位】①早稲田学院②中大附③江戸川④小岩＝早稲田学院は初出場。中大附は8年連続8度目の代表

△女子準々決勝
府中 7－4 練馬
五商 12－2 四谷商
石神井 4－2 神代
桜水商 12－1 雪谷

▽同決勝リーグ
府中 6（分）6 五商
桜水商 15－1 石神井
桜水商 8－2 五商
桜水商 8－0 府中
石神井 10－6 府中
五商 15－3 石神井
【順位】①桜水商②五商③石神井④府中＝桜水商は4年連続11度目の代表、五商は初出場。

東　海

◇岐阜県

▽男子1回戦
岐阜工 22－7 明智商
大垣農 15－8 高山
岐阜北 14－6 羽島
県岐阜商 24－5 南濃
岐阜西工 13－11 大垣工
大垣 16－12 岐阜高専
岐阜南 18－10 本巣
不破 26－9 関商工
岐阜東 14－13 大垣南
大垣北 13－11 東濃
斐太実 22－16 海津
市岐阜商 15－9 大垣商
多治見北 14－12 岐阜
益田 12－4 斐太
加納 26－5 高山西

▽同2回戦

岐山 26—3 岐阜工
大垣農 13—10 岐阜北
県岐阜商 20—7 岐阜西工
岐阜南 25—7 大垣
不破 36—10 岐阜東
斐太実 25—8 大垣北
市岐阜商 17—15 多治見北
加納 17—5 益田

▽同決勝リーグ進出校決定戦
岐山 18—4 大垣農
県岐阜商 7—6 岐阜南
斐太実 13—5 不破
加納 15—5 市岐阜商

▽同決勝リーグ
県岐阜商 5—3 岐山
加納 14—5 斐太実
岐山 15—12 斐太実
加納 8—5 県岐阜商
県岐阜商 11—8 斐太実
岐山 12—10 加納

【順位】①加納（得失点差10）②岐山(3)③県岐阜商(2)④斐太実

加納高は3年連続12度目、岐山高は2年連続5度目の代表

▽女子1回戦
岐阜北 6—4 羽島
高山 8—4 多治見北
不破 4—1 明智商
大垣 5—3 斐太
富田 6—2 南濃
高山西 7—5 羽島柳津

▽同2回戦
益田 12—3 岐阜北
大垣北 7—0 鶯谷
本巣 12—6 高山
加納 13—3 不破
大垣南 14—3 大垣
養老女商 10—3 富田
大垣農 7—5 岐阜南
県岐阜商 6—2 高山西

▽同決勝リーグ進出校決定戦
益田 14—1 大垣北
加納 7—0 本巣
養老女商 9—4 岐阜南
県岐阜商 4(延)3 大垣農

▽同決勝リーグ
益田 10—5 養老女商
加納 7—2 県岐阜商
益田 7—5 県岐阜商
加納 11—6 養老女商
養老女商 7—6 県岐阜商
加納 4—2 益田

【順位】①加納②益田③養老女商④県岐阜商

加納高は2年連続8度目、益田高は3年ぶり2度目の代表

◇三重県

▽男子1回戦（1試合）
四日市商 11—4 四日市

▽同準々決勝
津 18—12 亀山
津工 22—2 四日市中央工
海星 19—14 高田
四日市工 33—5 四日市商

▽同準決勝
津工 19—4 津
四日市工 37—11 海星

▽同決勝
四日市工 31—8 津工

四日市工は3年ぶり13回目の代表

▽女子1回戦
四日市 12—2 四日市商
津 5—3 松阪女
亀山 12—5 上野

▽同準々決勝
津女 8—6 四日市
亀山 7—5 上野商
菰野 4—1 白山
暁 20—0 津

▽同準決勝
津女 21—4 亀山
暁 18—2 菰野

▽同決勝
津女 12—6 暁

津女は2年ぶり8度目の代表

関西

◇大阪府（続報）

▽男子（三次予選1回戦）
都島工 10—7 城東工
東住吉工×千里は両チーム没収
鳳 18—6 東淀川
佐野工 17—14 枚方
東住吉 16—8 和泉工
大商 11—9 北野
堺工 21—10 勝山
追手門 10—8 岸和田

▽同決勝リーグ出場校決定戦
都島工 不戦勝
佐野工 11—7 鳳
大商 11—6 東住吉
堺工 26—11 追手門

▽同決勝リーグ
佐野工 15—13 都島工
堺工 15—11 大商
都島工 15—8 大商
佐野工 12(分)12 堺工
都島工 12—10 堺工
佐野工 17—8 大商

【順位】①**佐野工**②**都島工**③堺工④大商＝佐野工は4年ぶり5度目の代表、都島工は2年ぶり2度目の代表

▼女子決勝リーグ出場校決定戦
寝屋川 5—4 住吉学園
大谷 12—2 東大阪
北淀 8—6 初芝
春日丘 17—2 三国丘

▽同決勝リーグ
大谷 2—0 寝屋川
春日丘 12—4 北淀
寝屋川 10—3 北淀
春日丘 7—4 大谷
春日丘 3—4 寝屋川
大谷 14—7 北淀

【順位】①**春日丘**②**大谷**③寝屋川④北淀＝春日丘は3年ぶり8度目の代表、大谷は2年ぶり8度目の代表

中国

◇広島県

▽男子1回戦
呉工 16—7 呉港
木之江工 8—5 三次工
山陽 12—4 城北
広 16—2 呉商
三津田 22—8 松本商
三原工 14—4 竹原安芸津
江田島 17—11 白木
修道 14—10 宮原

▽同準々決勝
呉工 棄権 木之江工
広 15—4 山陽
三津田 29—10 三原工
修道 36—7 江田島

▽同準決勝
呉工 13—8 広
修道 18—10 三津田

▽同決勝
呉工 11—10 修道

呉工は初出場

▽女子1回戦（3試合）
豊栄 4—1 白木
進徳 9—4 戸手商
呉商 6—0 賀茂

▽同準決勝
第一女商 9—5 豊栄
進徳 7(延)6 呉商

▽同決勝
第一女商 13—6 進徳

広島第一女商は3年ぶり3度目の代表

▽参考記録
山陽女 12—3 第一女商

九州

◇大分県

▽男子1回戦（2試合）
大分商 28—11 国東
国東農 24—19 大分電波

▽同準決勝
大分東 24—14 大分商
鶴崎工 — 国東農

▽同決勝
鶴崎工 20—12 大分東
鶴崎工は2年ぶり8度目の代表

▽女子1回戦（1試合）
玖珠農 10—3 碩南野津原

▽同準決勝
別府青山 — 玖珠農
大分東 16—6 中津北

▽同決勝
大分東 7—6 別府青山
大分東高は3年ぶり6度目の代表

◇沖縄県

▽男子1回戦
真和志 18—14 小禄
中部工 19—6 沖縄工
浦添 29—7 沖縄水
糸満 不戦勝 宮古工

▽同2回戦
八重山 29—10 本部
那覇 20—9 南農
コザ 24—8 中商
豊見城 12—8 興南
糸満 14—3 北農
真和志 25—15 那覇工
知念 13—4 浦添
首里 6—5 中部工

▽同準々決勝
知念 18—7 八重山
豊見城 10—8 首里
コザ — 糸満
那覇 — 真和志

▽同準決勝
知念 8—7 豊見城
コザ 15—10 那覇

▽同決勝
コザ 10（延）9 知念
コザ高は初出場

▽女子1回戦
コザ 6—5 真和志
八重商 14—0 南商
那覇商 8—4 知念
小禄 20—4 本部
興南 14—4 北山
糸満 10—7 豊見城
宮農 15—10 沖縄
首里 5—4 浦添

▽同準々決勝
八重商 10—5 コザ
小禄 7—4 那覇商
興南 10—6 糸満
首里 — 宮農

▽同準決勝
小禄 12—6 八重商
興南 7—6 首里

▽同決勝
小禄 12—4 興南
小禄高は5年連続5度目の代表

◇鹿児島県

▽男子1回戦（1試合）
栗野工 12—7 甲南

▽同2回戦
鹿児島工 22—14 九大附
高山 29—8 薩南農
財部 31—4 鹿児島南
福山 12—9 薩南工
加治木工 27—8 頴娃
鹿児島南 27—4 出水学園
加治木 棄権 有明
隼人工 28—4 栗野工

▽同決勝リーグ出場校決定戦
鹿児島工 25—20 高山
財部 9—5 福山
加治木工 11—5 鹿児島南
隼人工 22—3 加治木

▽同決勝リーグ
隼人工 10—8 加治木工
隼人工 27—13 財部
隼人工 20—11 鹿児島工
加治木工 13—6 財部
加治木工 15—14 鹿児島工
鹿児島工 16—15 財部
【順位】①**隼人工**②加治木工③鹿児島工④財部
隼人工は初出場

▽女子1回戦
純心 24—6 川内商工
鹿児島工 8—7 有明
串木野女 10—9 高山

▽同決勝リーグ出場校決定戦
加治木 16—7 純心
国分実 12—7 鹿児島南
南大隅 11—6 薩南農
財部 27—2 串木野女

▽同決勝リーグ
財部 14—4 加治木
財部 14—3 南大隅
財部 17—4 国分実
加治木 9—6 国分実
加治木 9—3 南大隅
国分実 11—5 南大隅
【順位】①**財部**②加治木③国分実④南大隅
財部高は3年連続3度目の出場

◇熊本県

▽男子1回戦
天草工 19—6 八代工
宇土 26—10 八代
八代農 25—13 東海第二
熊本一工 13—12 水俣工

▽同2回戦
マリスト 22—11 天草工
九州学院 11—7 熊本市商
菊池農 16—8 御船
水俣 19—17 宇土
済々黌 32—9 八代農
鎮西 14—10 天草
熊本二 9—7 熊本商
熊本一工 18—13 熊本

▽同準々決勝
マリスト 16—14 九州学院
水俣 19—14 菊池農
済々黌 10—6 鎮西
熊本一工 16—12 熊本二

▽同準決勝
水俣 14—11 マリスト
済々黌 9—8 熊本一工

▽同決勝
済々黌 21—11 水俣
済々黌は15年ぶり8度目の代表

▽女子1回戦
水俣高 20—3 熊本商
鎮西 14—2 熊本二
菊池農 9—5 鹿本商
天草 9—2 尚絅
牛深 7—6 八代農
九州女学院 19—7 菊池女
熊本市立 25—10 天草農

▽同準々決勝
熊本女商 23—9 水俣
菊池農 18—5 鎮西
天草 15—4 牛深
熊本市立 15—4 九州女学院

▽同準決勝
熊本女商 9—2 菊池農
熊本市立 9—5 天草

▽同決勝
熊本市立 7—4 熊本女商
熊本市立は3年連続、16度目の代表

予選記録今号で打ちきり

毎年々々、全県収録を望みながら、実行できず、誠に残念です。

毎年々々、各県の方々にお願いしているのですが、完全収録はできません。

各県に記者を派遣できないのですから、各県の協力なしには、この企画は実現不可能なのです。

現在、もっとも多いハンドボール人口をもっている高校界だけにこの記録の完全収録に力を入れているのです。

青春の記録、涙も汗もあった試合、それは1行にしか記録として残らないかもしれません。しかし今年この予選に参加した選手諸君にとってはかけがえのない記録ではないでしょうか。よろしく御協力を。なお北海道の記録は本誌24頁「ブロック高校選手権・北海道」の項参照

（編集部）

その名も「水曜リーグ」

大垣(岐阜)で注目の底辺活動

□……「水曜リーグ」――このさわやかさ、響きのよさ。水都・大垣市(岐阜)で去年から始められた社会人ハンドボール大会の名称である。

底辺への拡大、一般への侵透は日本ハンドボール界の大課題だがチームの性格や地域性などがからんで、なかなか全国的な歩調統一とはいかない。「水曜リーグ」も、まったく独自の見解に立って、地方の愛好者たちがささやかに進めた活動である。

□……リーグの発足は去年の4月21日。それまでに4回の打合せを行いスタートさせた。

市の中央、お城に近い大垣市スポーツセンターを年間を通じて水曜日を借り切り、毎回午後6時から3時間のスケジュールを組んだ

見るスポーツから自から行うスポーツへの転換期、予想外の反響があった。主旨に賛同して市の教育委員会、体育協会が積極的にバックアップしてくれたし、地元紙が試合記録を報じてくれたのも絶好のPRになった。

□……リーグ戦は初年度5回、今年度は4回に整理したがその替り女子の部を新設。着実な発展といってよい。参加資格も前年は自由参加だったが、今年から単一職域、同一居住区に変更した。既成チーム、高校OBチームが主体になっていた前年に比べ〝社会体育〟として一歩前進といえる。みごとだ。

6月20日現在、男子6、女子3チームが加盟、毎週水曜の夜を楽しみに集る人たちは男子は16才から43才までと巾広い。

□……面白いのは男子の試合に女子が参加してもよいことだ。この特別規定をつくったものの「まさか」と思ったのだが、しばしば紅一点の登場があるという。

登録メンバーも12名とか15名と固苦しくなく「無限」。これならばいっそう会場は和やかになるし、町ぐるみ、会社ぐるみの声援にも熱が入る。

□……参加することに意義、だが優勝争いの興味ももちろんとのえられている。前年は5回それぞれ表彰を行ったが、今年は年間の優秀チームも選び出そうかと考えられており、同じような主旨で運営されている「岐阜リーグ」の代表と〝王座決定戦〟を争う話し合いもまとまりそうだ、という。

□……クラブの育成は難しいといわれる。先の全国理事会でも「クラブ」の定義づけが話題になったが、日本協会などのレベルでは、考えることがどうしても競技的、勝負的な面にとらわれてしまう。

水曜リーグ事務局もこの点は「日本協会のクラブ育成等と我々の主旨とは異質のもの」とはっきり線を引いている。

荒川日本協会理事長は「底辺のことは底辺で考えるのが最も適しているのではないか」とよくいうが、水曜リーグをみているとたしかにそれがあてはまりそうだ。

しかも、この大垣での活動はみかたをかえれば日本協会のオリンピック対策と肩を並べるほどの意義があるのである。水曜の夜にキラリと光るこの催し、いつまでもその輝やきを失わないで欲しい。

各地の記録

下関中工OB、初の栄冠

第17回中国一般(男子)選手権は7月8、9日の両日山口県体育館に島根を除く4県の代表16チームが参加してトーナメントで行われた。

ベスト8には有力チームが順当に勝ち進んだが、ここで3連勝を狙う日新製鋼呉(広島)がインター・ハイ連勝の主力を集めた下関中央工OB(山口)の巧い攻撃にあって押し切られる波波があった。

勢いにのった下関中央工OBは準決勝で三井石油化学(山口)を一方的に破り、決勝でも優勝最有力とみられた三菱レイヨン大竹(広島)を振り切って初優勝を飾った。

クラブチームの優勝は第12回(昭42)の菊松会(広島)以来5年ぶり、山口代表の栄冠は10年ぶり4度目で広島勢の10連勝は成らなかった。

▽1回戦

日新製鋼呉(広島)	17—16	児島柏会(岡山)
下関中央工OB(山口)	31—11	倉吉フェニックス(鳥取)
川崎製鉄(岡山)	25—25	米子ク(鳥取)
三井石油化学(山口)	28—20	広島県教職員(広島)
三菱レ大竹(広島)	21—16	岡山教員(岡山)
山口県教員団(山口)	23—15	境港市役所(鳥取)
武田薬品光(山口)	20—12	全倉敷(鳥取)
徳山ク(山口)	26—8	修道ク(広島)

▽準々決勝

下関中央工OB	18(9—9, 9—7)16	日新製鋼呉
三井石油化学	27(13—6, 14—9)15	川崎製鉄水島
三菱レイヨン大竹	23(9—4, 14—9)13	山口県教員団
徳山ク	18(9—3, 9—8)11	武田薬品光

▽準決勝
下関中央工OB　19（9−4、10−6）10　三井石油化学
三菱レイヨン大竹　24（10−6、14−6）12　徳山ク
▽決勝
下関中央工OB　18（9−7、9−10）17　三菱レイヨン大竹

愛知教大が優勝飾る

▼第21回東海地区国立大学体育大会ハンドボール競技（7月・名大）
▽予選リーグA組
名工大　15−6　名　大
岐阜大　20−10　名工大
名　大　20−15　岐阜大
▽同B組
愛知教大　21−15　三重大
三重大　15−9　静岡大
愛知教大　23−10　静岡大
▽5位決定戦
名　大　21−13　静岡大
▽決勝リーグ
岐阜大　20−16　三重大
愛知教大　18−13　名工大
三重大　18−13　名工大
愛知教大　16−13　岐阜大

名工大×岐阜大、愛知教大×三重大戦は予選リーグの記録を適用
【順位】①愛知教大3戦全勝②岐阜大2勝1敗③三重大④名古屋工大
▽女子（オープン）
愛知教大　6−5　岐阜大
山口大女　山口大にこのほど女子が活動　子同好会が発足した中四国学連で女子は初めて。

湧永薬品が全勝優勝

▼第16回大阪実業団リーグ（6月東淀川体育館）
湧永薬品　28−2　美津濃
大山商会　16−5　大阪ガス
大山商会　26−7　美津濃
大阪ガス　17−13　美津濃
湧永薬品　23−11　大山商会
湧永薬品　37−11　大阪ガス
湧永薬品　37−3　美津濃
大山商会　24−10　大阪ガス
大阪ガス　18−15　美津濃
湧永薬品　21−7　大山商会
大山商会　28−10　美津濃
湧永薬品　30−9　大阪ガス
【順位】①湧永薬品勝ち点3②大山商会2③大阪ガス1④美津濃0

日新製鋼、三菱レ降す

▼広島県一般男子春季選手権（5月・呉）
▽準々決勝
三菱レ大竹　22−3　呉高専
広島教職員　18−14　全広商大
日新製鋼呉　25−7　石播呉造船
修道ク　17−12　日本鋼管福山
▽準決勝
三菱レ大竹　16−8　広島教職員
日新製鋼呉　22−11　修道ク
▽決勝
日新製鋼呉　11（5−3、6−3）6　三菱レイヨン大竹

育英高、東北大を破る

▼第2回宮城県選抜大会（6月・宮一女）＝男子のみ
▽A組
宮城教員　19（分）19　仙台育英高
東北大　19−11　学院大OB
仙台育英高　16−11　東北大
宮城教員　21−14　学院大OB
▽B組
マツダ宮城　16−13　古川工OB
東北学院大　20−18　マツダ宮城
東北学院大　27−12　古川工OB

中学大会記録

▼第3回東海地区中学生大会〜第1回全国中学生東海代表選考会〜（6月25日・岐阜県笠間町）
▽男子準決勝（＝1回戦）
東港（愛知）　23（10−2、13−2）4　清水第八（静岡）
加納（岐阜）　12（5−0、7−6）6　平田野（三重）
▽同決勝
東港　9（5−3、4−5）8　加納
▽女子準決勝（1回戦）
豊橋南部（愛知）　15（5−0、10−3）3　清水第二（静岡）
加納（岐阜）　21（9−4、12−4）8　明和（三重）
▽同決勝
豊橋南部　7（4−2、3−3）5　加納
男女とも初優勝。全国中学生大会へは男女とも加納中を推せん。

長期的な強化路線を

ミュンヘンでの結果はどうあれ日本協会はポスト・五輪についていろいろ策をめぐらされていると思いますが、私はやはり何をおいても長期的な強化体制を整えるべきだと考えます。
今回のオリンピック代表12名もかなりの時間をかけて強化され、計画的な編成であったといわれますが、卒直にいって殆どの選手は今が絶頂期、今後トップに何年立てるか不安です。後続の人材においても楽観は許せないというのが私の主観で、少くとも8年後のオリンピックでは金メダルを狙うためにこの際思い切ったジュニア対策を主軸とする長期強化路線を敷かれることを切望します。
選手は現在の高校3年〜大学2年あたりに思い切ってしぼり、コーチも20代後半〜30代前半を当ててはどうでしょうか。日本協会の次の目標が「金メダル」であることを期待しています。【川崎市・荒川憲一郎・会社員】

読者投書欄　明日への提言

本誌創刊百号を迎えて

藤本　強

早いもので、本誌も創刊百号を数えるに至った。創刊されてから12年余、月刊になってから7年余私が本誌の編集をしはじめてから5年余の年月が流れたことになる〝初心忘るべからず〟という言葉がある。編集に携りだした頃にはああもしてみたい、こうもしてみたいという考えもあり、失敗もあったが、とにかく何か新しい試みをしてみたいという気持が強かった。それが次第に良い意味でも、悪い意味でも、序々に作りあげられた形にのっとって編集をするようになってしまった。またここのところ記録に誌面の多くをさかざるを得ない状況になってしまい、いくつかの連載ものの企画も中途半端にしてしまっているものが多い。とかく記録面というのは無味なものになりがちである。読みもの、技術面を主にしたもの等やいくつかの企画をたてるが、どうも誌面の制約に押されがちである。そうかといって、ここで一挙に増頁を決意するだけのものはない。

この百号までの歩み、いろいろなことがあったが、編集をはじめて以来、考えてきたのは、ひとりよがりであるかもしれないが、この雑誌はあくまでもハンドボールファンのものでありたい。日本ハンドボール協会の機関誌ではあっても、それに完全に表裏一体の関係ではなく、時には批判もするということを心がけてきたつもりである。

しかし、この心構えも必ずしも巧くは云ってはいない。というのは、ハンドボール界というところどうも発表すると云うことに、いささかためらいを感じる人が多いのか、原稿を書くのが面どうなのか判らないが、発言は活潑ではない。

ここ二・三年、かなりの方から種々の形で投稿がよせられるようになったが、一部の人に限られている傾向がある。

今年から再設した投書欄も各方面で種々の波紋を描いているらしいこと風の噂ではきくが、堂々とした反論という形はとられていない。あることで批判がでたならば釈明もしくは、それに対する再批判という形で投書欄がよりにぎわい、いろんな意味に於ける討論の場をこの雑誌が提供している形が望ましい。こうしてこそ、真の意味でのハンドボール界発展のための提言になるのではないだろうかあまりにも云いっぱなし、云われぱなしの一方通行の提言にしかなっていないのは残念である。

何か意見があったなら、葉書ででも結構、それに走り書きででも編集部あてにどんどん送ってほしいと思っている。

とは云っても、ここのところ、各地の記録への投稿、非常に多くなってきている。これとても、やはり常連は決っている。インターハイの予選記録もすべて収録できている訳ではない。選手達の青春の記録として、ぜひ全県収録しておきたいと思っても、これも各地の協力がないことには不可能である。編集部としては、こういった記録だけでなく、各地の話題を広くよせてほしいと思っているのだが、その希望はなかなか達っせられそうにもない。各地で種々の試みがなされていることであろう。そういう話題を広く紹介し、共通の悩み、あるいはある問題に処する解決の方法を探ることもできよう。そういった各地の橋渡しの役目もつとめたい。

とにかく、この雑誌は日本ハンドボール協会で発行しているが、ハンドボールファン全部のものだということを読者の一人一人のみなさんが感じられるように、多くの方々からの投稿を期待したい。特に女子のＯＧからの投書がないのは寂しい。女子も毎年多くのＯＧが世の中に出ている筈。この人達がそのままハンドボール界から切れていってしまう傾向にあるのは残念だ。審判にしろ、地方の役員にしろ、ごく限られた人々しかやっていないようだし、ましてママさん選手などという話はほとんどきかない。もう二世もかなり多くなっている筈である。そういった面からの意見はハンドボールファンの増大という点、ハンドボールの発展という点から見て、不可欠の要素である。ぜひとも、意見をおよせ頂きたい。

この雑誌がまがりなりにも、百号続いたことには、杉山茂常務理事の大活躍に負うものである。各地への取材、原稿執筆、校正とその大半を担当してもらっている。彼なしでは、とてもここまではこなかったと断言できる。また従来この雑誌の編集を担当してこられた方々にも厚く御礼申しあげる。

最後になったが、十年来、印刷を引き受け、時間的ムリをも良く聞き届けてもらった高橋活版の各位にも感謝する。

その他、歴代の事務局の方々の力をもおおいに借りている。これら多くの方々の協力によって、この雑誌は百号を迎えることができた。皆さんありがとう、今後ともよろしく。

（本誌編集長）

本誌の誕生まで

昭和34年の暮だった。日本協会役員と在京報道関係者との懇談会席上、当時理事長の高嶋洌氏（現・杏林大学医学部教授）に、「ハンドボール界でもそろそろ専門誌を作りたいと思うのだが、どうだろう」とたずねられた。いわゆるマスコミに採りあげられることの少い斯界。学生時代から「ハンドボール、ハンドボール、ハンドボール」で埋った刊行物を待望していた私は即座に賛成した。高嶋氏が機関誌といわず専門誌といったのも気にいったことを昨日のように覚えている。

印刷、編集などは同席していた新日本スポーツ社の宮沢宏之社長が引きうけて下さることになり、5月創刊を目標に高嶋氏が協会内部の体制づくり、私が原稿集めをすることになった。そして35年6月1日めでたく新日本スポーツ社から第1号が発刊された。亡くなった式場隆三郎会長が資金面をカバーして下さったとも聞いたが、私はそんな苦労を知らず浮き浮きして原稿を書いた。

それから12年、100冊。途中、専門誌から機関誌に変ったが、協会おしきせの内容ではなく、全国愛好者の広場として「機関誌らしくない機関誌」なのは嬉しい。42号から編集長になった藤本強氏の意欲に負うところが大きい（杉山茂）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一〇〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十七年七月二十五日印刷 昭和四十七年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百円(年間購読料 千八百円)